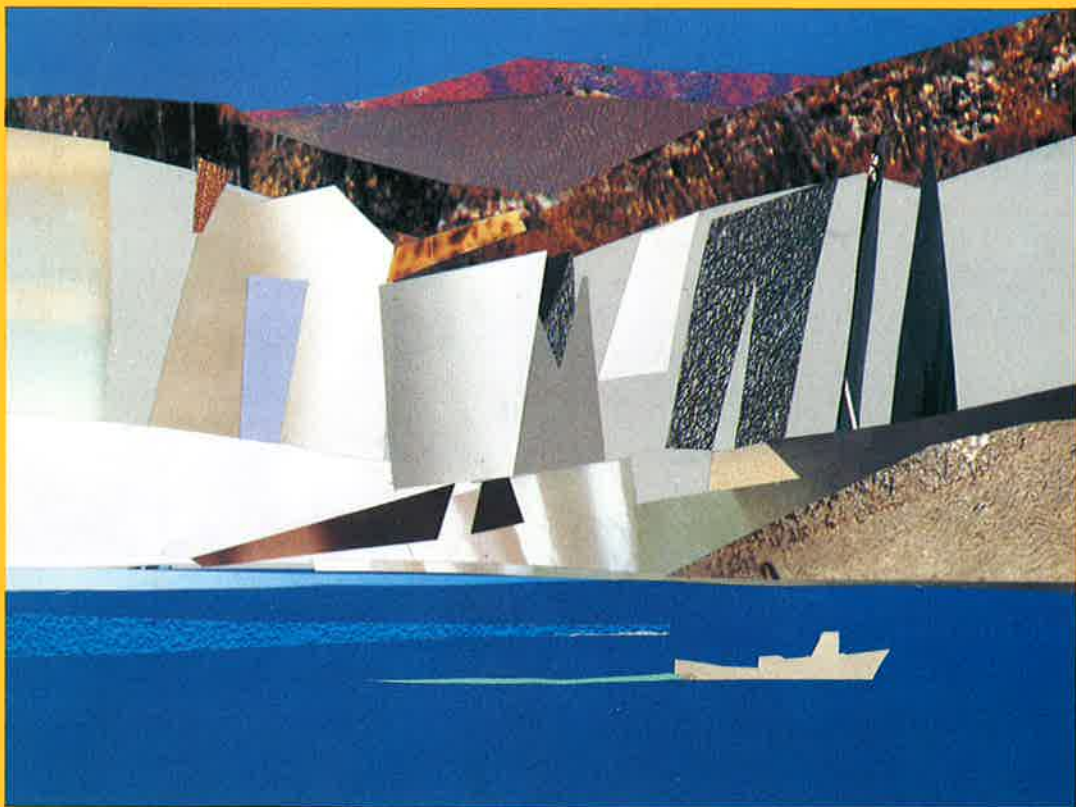


# 波と鳥

第 13 号      1 9 9 2



室蘭市医師親交会誌

# 波ノ鳥

第 13 号      1 9 9 2

室蘭市医師親交会誌

# 目次

表紙 銀屏風 加藤治良  
カッタ 竹内隆一

## 挨拶

会長 斎藤修弥

## 随想

人間と人間性について ..... 竹内隆一 ..... 1

母恋 古稀 ..... 曾根清孝 ..... 17

八十八富士山頂を極める ..... 高橋陽夫 ..... 18

もう一つの風流世界 ..... 加藤治良 ..... 19

種田豊君を偲ぶ ..... 熊谷弘夫 ..... 22

## 座談会

親交会の未来像を語る ..... 25

斎藤甲斐之助・塩沢英光・辻寧重・畠山正照・皆川芳徳  
編集委員（加藤・大久保・児玉・斎藤・沢山・三村・村井）  
事務局（高橋・小杉）

## あんらくいす

ニューヨーク・ニューヨーク ..... 上田 智夫

隅田川の花火 ..... 大久保洋平

日本第二の深湖支笏湖畔、  
幽邃静寂な丸駒温泉を訪ねて ..... 鴨井 清一

第二六回北海道ドクターズゴルフ大会

青年B優勝記 ..... 西里 弘二

## 編集室へのお便り

親交会のおもな行事

会員異動

編集後記 ..... 斎藤美知子

挨拶

## 親交会創立四十年

室蘭市医師親交会会長 斎藤修弥

早いもので室蘭市医師親交会が創立されてから、今年で四十年になりました。かえりみますと、昭和二十七年斉藤義太郎会長、長田廣先生、東栄先生、米沢堡先生などが中心となって設立されて以来、会員の親睦、互助制度として大きな役割を果たしてきました。

しかしながら四十年といえは人間では不惑の年にあたり、自然の春夏秋冬に例えれば成熟の秋にさしかかっている季節でもあります。時移り、世の中の変遷につれて親交会の存在意義も少しづつ変化していますが、医師会内部の親睦、団結を深める意味において、会員、家族を含めての安らぎの場としての親交会、そして「波久鳥」の役割はますます大きくなるものと思われます。春から夏にかけて、強い太陽の日ざしのもとで、木々がたくましく己を充実させていくように、この四十年親交会は大きく発展してまいりました。しかし夏が終わると静かな秋が訪れてきます。木々は故郷である大地のふところにもどることを意識し、自分たちの生命を果実へと結実させていきます。それと同じように親交会も内省の時を迎えていると思います。私たちが毎日の生活で生き生きした充実感を実感するため、親交会が確かに無意識のうちに大いに役立っているという身近な存在になることが望ましいと思います。そんな意味で、今回の四十周年を機会に、親交会の良さを皆で再発見しようではありませんか。

## 随想

# 人間と人間性について

竹内隆一 編著

(竹内産婦人科医院)

この数年来「人間」とは何かと自らに問いかけるようになり、折にふれて読む「人間」についての書物の要点をコピーするようになりました。この小論はそれらを寄せ集めて、自分の考えなりにつなぎ合わせたものであります。

読み返してみますと少し冗長で、当然のことながら内容も固く、とても「波久鳥」の誌風には合わないと思われます。しかし編集委員が、いくら長くてもその内容は間わないし、断わることはありませんよ、と、いって下さるので、言葉通りに受けとって投稿する次第です。

編者としては、お忙しい方には、目次V. 和辻哲郎「人間の学としての倫理学」を読んで、及び、インフォームド・コンセントに実存哲学のヤスパースの限界状況をとりあげた、目次VI. あとがき、の項だけでもお読みいただければ幸いです。

### 目次

- I. はじめに
- II. 人間学 人間性
- III. 現代人間論の展望
  1. 梅原 猛
  - コギト エルゴ スム たわごと論
  2. 大庭 健
  - 環境と人間（現代における人間の問題）
  3. 坂本 百大
  - 心身問題としての人間機械論（現代における人間の問  
題）
- IV. ギリシア哲学の今日的意義
  1. 北島 美雪
  - 物質生命概念の起源
  2. 牛田 徳子
  - 知性とロゴス
- V. 和辻哲郎の「人間の学としての倫理学」を読んで  
—— 今何故に和辻倫理学なのか ——
  1. 「人間」という言葉の意味
  2. 「世間」あるいは「世の中」の意義
  3. 「存在」という言葉の意味
  4. 「生」の哲学と人間性について
  5. まとめ
- VI. あとがき（インフォームド コンセントについて）

引用 参考文献 1128

## I. はじめに

今日私たち人類はこれまでに経験したことのない状況に直面しているといつてよいであろう。

エレクトロニクスや分子生物学に代表される科学技術の発達が人間の生存条件を一変させつつある。と同時に文化人類学、精神医学、動物行動学の成果からも、人間とはなにか、ということ自体が改めて問い直されるに至っている。確かに人間の生活は便利になり効率よく営まれるようになった。しかしその反面地球的な規模の難問が社会に山積している。核戦争の危機、貧富の極端なアンバランス、公害と環境破壊、教育の荒廃等等。その上、生と死、心と幸福、価値や倫理など人間にとっての基本的諸問題がそれらと結びついていっそう切実さを増している<sup>1)</sup>。

人間とは何か、「こころ・精神」とは何か、心身関係とは何か、それは人類がもの心ついて以来自らを求めつづけて来た人類の精神の歴史、精神史である。

この小論の概要は、

まずは岩波哲学小辞典 岩波書店(1988) によって人間学及び人間性を読み、ついで新・岩波講座 哲学 6「物質 生命 人間」岩波書店(1986)をテキストとしてえらび現代人間論の展望を試みた。

この項では梅原猛氏の明快な「コギト エルゴ スム」たわごと論と、今世紀の科学文明成立に金科玉条とされたデカルトのこの有名な言葉に対する大庭健氏の批判「環境と人間」を合わせて紹介した。

坂本百大氏の「人間機械論」は―これは分子生物学者である利根川進氏も当然同じ立場に立つものと考えられるが―現代人間論の展望には言及せざるを得ない論文であろう。

ついでギリシア哲学の今日的意義に関しては北島美雪氏の「物質生命概念の起源」及び牛田徳子氏の「知性とロゴス」が適当と考えられた。

さて、今何故に和辻倫理学なのか。

和辻哲郎の代表的著作とされる「人間の学としての倫理学」は人間及び人間性について極めて分りやすく平明に叙述されているので、金子武蔵氏の解説書と共に読んで和辻倫理学は「人間とは何か」を求めて止まない真理の書なるが故に時代を越えて今日に生きるものであること、私達に永遠に不滅の灯をかけて啓示を与えるものであることを知ることが出来た。常に人間と対面して医療を行う私共医師にとっての必読の書と思われる。

あとがきとして実存の哲学を背景とするヤスバースの限界状況をとりあげてインフォームド コンセントに言及した。

## II. 人間学 人間性 (岩波哲学小辞典よりの要約である)

### 人間学 anthropology

人間についての考察は哲学史上のほとんどすべての哲学に含まれているが人間学という概念は近世になってできたものである。

カント(1724-1804<sup>独</sup>)は人間学を生理的人間学と実践的人間学とに分け、前者はその後人類学として独立の

科学となり、後者は人間が自分自身をどう形成するかを研究するとした。

しかし人間学はフォイエルバッハ（1804～72<sup>①</sup>）に典型的に見られるように、人間性なるものの考察を中心として、その目標は人間を単に抽象的思考としてではなく、感性（sensitivity）を基礎とし知情意をそなえた生きた人間としてとらえることであった。

### 人間性 *humanity human nature* づけ

人間を人間たらしめている特性、人間の本質を意味する。

*humanity* という語はローマの代表的哲学者キケロ（前106～43<sup>②</sup>）が用いたフマニタス（*humanitas*）という言葉に由来するという。しかしこれがひとつの人間観として現れ、またひとつの思想として社会的に定着したのはルネサンス期であった。

そこでは中世的な神と封建的王権による桎梏から解放された人間への賛歌が、絵画にまた戯曲に、また詩に謳われている。ここで解き放たれた人間性に至高の価値を認めようとするのがヒューマニズムであろう。

そしてさらにこのヒューマニズムに哲学的基礎を与えたのが1～2世紀おくれで現れたカントを頂点とする理性主義哲学であった。カントが生涯をかけて追求したのは、自然の理法と道徳の理法に正しい位置を与えることであった。

彼はとくに人間性について考察を行ったが、その人間観は理性的人間観と感性的人間観の総合であり、みずからの行為の主体となる自主的な人間像が捉えられている。

ヘルダー（1744～1803<sup>③</sup>）はカント哲学の批判者で自然と精神との分離を排し、人間性実現に向かって両者の関連的發展を説く。また精神の起源的な表現として民族の詩と宗教を尊重した。

産業革命とフランス革命は人間が理性と感性を自由に駆使して自然界や人間界を積極的に変革する能力をもつことを証明したが、そうした面から人間性を捉え、生活手段の生産という行為に人間の人間たる所以を見いだしたのはマルクス（1818～83<sup>④</sup>）である。彼は生産行為を通じて類的連帯を保つはずの人間が資本主義社会では逆に人間らしくない生活を強制されていると説く。

## Ⅲ. 現代人間論の展望

### 1. 梅原 猛 *cogito ergo sum* たわじう論<sup>⑤</sup>

デカルト（1596～1650<sup>⑥</sup>）の二元論によって科学は独走し人間は破滅の危機にさらされている。

デカルトによれば思惟以外の存在は物質なのである。デカルト哲学の究極の帰結は、思惟する自我の前に立つのは、科学と技術によって人間に支配された生命を奪われて単なる物質と化した自然なのである。近代社会はデカルト哲学によってその世界をつくってきた。近代社会は人間の支配する世界であり、そしてこの世界から急速に生きている生物が失われ、その生きている生物の座に死んだ物質、コンクリートの建物やテレビが座っているのである。

デカルトの哲学は生命という概念を欠くという重大な欠陥

をもつていて、それは一方で輝かしい近代世界をつくつたにせよ、一方でその二元論によつて自然破壊を促進した哲学で、現代の危機に關してはむしろ克服すべき思想である。

「我思う、故に我あり」この有名な言葉は自分の小さな理性を過信した人間の思い上がりから生じた「たわごと」であるように私には思われると氏はいう。

更に梅原氏の言葉を続けると、「我」は思惟するからそこに存在しているわけではない。「我」は長い生命の發展の歸結としてそこに存在しているのである。長い長い地球の歴史を背景にして生命が生まれ、その生命の發展の歸結としてこの思惟することが出来る私という人間が存在しているのである。たとえこの私が人間として思惟という能力をもつていたとしても、その思惟をもつていたことをデカルトのように無条件に賛美してよいであらうか。

デカルト以来人間はこの思惟なるものを他の生物を征服支配することのみに使つてきた。そして結局地球環境の破壊を招いたとすれば思惟への誇りがかえつて人間を破壊に追いやることになる。人間を破壊に追いやるような思惟が果たして健全な思惟であらうか。いいかげんに「我思う、故に我あり」などと、人間のうぬぼれの上に立った「たわごと」をいうデカルト哲学を捨てて、人間は地球の發展の結果として生み出された生命の一派生形態であり、その生命はすべての生きとし生けるものと同じであることを深く自覚し、あらゆる他の生命との共存をはかる哲学を自分のものとしないと、人類の破壊は必然であらう。

## 2. 大庭 健 環境と人間<sup>⑩</sup>

地は君たちのために呪われた

——創世記 3章17節——

人間はそもそものいかなる（人の間）として、人ならざるモノたちとのいかなる關係において人間たりえているのであるうか。

氏はデカルトを批判して次の如く述べている。

今やひとり心的存在なるがゆえに理性を占有した人間は、単なる物からなる環境との間で恒存のエネルギーの形態變換の合理化をめざして、環境をひたすら開發し搾取していく。そして自然の支配者にして所有者（デカルト）となつたのである。

すなわち人間は一方では化石という過去の生命活動の遺産を一方的に消尽するとともに、他方では生態システムが処理しきれぬエントロピーを垂れ流しにすることによって未来の生命活動の基礎的「ファンド」を一方的に消尽、消滅させ始める。

そしてそのもつとも今日的な形が一方では生命活動の根幹である遺伝子の効率的支配であり、他方では全生命活動の前提を破壊する放射性廃棄物の大量産出に他ならない。

農耕を開始した人間は特定植物の死生を支配しながらトリートリー（耕地）の争奪と、その中での労働の組織化をめぐつて、未曾有の組織化された種の中での殺戮を開始する。

実際それ以後の人類の個体数調節は準制度化された嬰兒殺

し(間引き)と、延期された大量間引であるところの戦争(日高敏隆)によって遂行されてきたにすぎないのである。

以上氏の述べるところを極く短くまとめて見たのであるが、ここに現代の縮図を見ることが出来る。

### 3. 坂本 百大 心身問題としての人間機械論<sup>(1)</sup>

デカルトの二元論は往時の一つの時代精神を忠実に反映したものであったと考えられる。すなわち、すでにガリレオが居り、ハーヴェイが血液の循環を見出していた。それは一つの新しい科学時代の幕開けを予告する時代であった。このような一般的知識背景の中で、デカルトは往時いまだに根柢かつた生氣論的な世界観から脱して、「物質」をそれ自体他の心的なもの、たとえば、アニメ等に支配されない独立な存在として定立する必要があったものと思われる。そして、この二元論の定立こそが、継いでくるニュートンの、心的なものの実質的関与を許さない、物質の運動としてのみ世界を記述する自然科学の世界観と方法論の確立への一つの準備となったものと評価される。このニュートン物理学の成立を契機として、科学はほとんど「物の科学」として展開することになる。

科学の対象が生物体に及び、そして生物学が分子レベルにまで下ったときに決定的な時期が訪れた。そこでは、科学が生命、あるいは精神、心そのものを対象とする可能性が開かれ、また、その必然性が現出したのである。その結果、現在に至るまでに生命現象はDNAに関する、いわゆるセントラル・ドグマを導く過程において、ほとんど物質現象に還元さ

れてしまったことをまず認めざるを得ない。生命現象とは、ここでは、消化、代謝、生長、運動、生殖、遺伝等の現象をいう。

しかし、さらに高度な生命現象として精神現象がある。それは、ときには人間のみが営み得る至高の生命活動と考えられる。しかし、精神現象も個々の観察可能な現象、たとえば感覚、知覚、記憶、記憶、思考……という形で具体的に特定されたとき、今や科学は、それらがすでに生理学的な物質的過程の一種であり、さらにそれらの機械的モデルが実現可能であると断定する用意があるかのごとくである。

また最近、バイオ・コンピューターという将来的なプログラムも始まっている。このような試みに実現性があるとすれば、ここで「人間は機械である」というテーゼは単なる抽象的議論であることを越えて迫真的なひびきを持つに至るであろう。

しかし、このようなものである限り、人間機械論は単なる唯物論の立場を確認するだけに止まる。この種の素朴な人間機械論に対して、哲学的な心身問題からの重圧を受けて、それに耐え得るものとして、新たな形態が模索されつゝ、あるのが現代における人間機械論の姿であろう。

利根川 進氏<sup>(2)</sup>は次のように述べている。

精神現象も含めてあらゆる生命現象が根本的には物質的基盤の上に立っている。そして物質的生命現象というのは基本的にはDNAに記された設計図通りに動いていくのだということになる。

地球の歴史の上であるとき物質が化学変化を起してDNA

というものが出来た。それがずっと自己複製しながら進化をつづけてこゝまでやって来た。

今日の人間機械論によれば、生物というものはもともと地球上にあったものではなくて、無生物からできたものである。無生物からできたものであれば物理学及び化学の方法論で解明できるものである。要するに生物は非常に複雑な機械にすぎないと思われる。

一方で米本昌平氏は新・岩波講座 哲学 6 物質と生命、進化の問題の項で次の如くのべている。

かつて真実同然と受けとられていた「DNAは生物の設計図である」という比喩は初期分子生物学が集中的に研究したウィルスにはよくあてはまりこそすれ、高等動物については誤解を招きやすい表現であることがはつきりしてきている。確かに、生物の形態の多くや行動のかなりの部分が何らかの対応関係を介してDNA上の塩基配列として書き込まれている可能性は高い。

たゞ現在の生物学は、あらゆる生命現象は、結局はそれに見合った複雑で厳密にコントロールされた蛋白質の発現の延長線上のものとして生来する、という哲学に立脚しているようにみえるが、今のところ最も安全に断言できるのは、蛋白質の一次構造はDNAに規定されている、ということまでなのである。複雑な現象に見合ったコントロール体系を、DNAに書き込まれたプログラムとして読みとる作業は、全く遅々としている。現在の生物学は、それは単なる技術上の制約にすぎないと答えるのであろうが、原理的にはいずれの日にかこの作業の積み重ねの果てに目標は達成される、という

発言は、それはできないと言っているのと同じである。1984年に、ショウジョウバエの体節の発現のスイッチングを行なっていると考えられるDNA配列が同定された。現在の生物学は、これをもつて、形態形成をつかさどる調節遺伝子の発見と大々的に銘打つのだが、私には、分子生物学の初期に流行した、大腸菌のDNAがわかれば象のDNAもわかるといった類の、あまりに楽天的すぎる一般化と同質のものにしかみえない。(以上の記述は1986年に発表された米本昌平氏の見解である)

#### IV. ギリシア哲学の今日的意義

##### 1. 北島 美雪 物質生命概念の起源<sup>①</sup>

著者はギリシア哲学の物質や生命の概念の起源について述べている。

レウキッポスやデモクリトスにおけるような物質の最小単位としての原子を措定するにいたるギリシア自然哲学の物質探究の方向は、現代科学が原子を陽子、電子、中間子のような素粒子に分ち分つてクォークに行き着いている方向と同じである。このような行き方に徹すればおそらくクォークの先にさらに物質の最小単位を見出すこともあるであろう。これと同じ説明方式では生命も物質からなると当然考えられる。

上述の通りデモクリトスは最も小さな原子から生命はなるとしている。これはまた生命をDNAから構成されるとするのと同じ方向である。

物質をもって人間の精神を含めて世界万有の一切を説明しようとする近、現代の大方の科学者の取る行き方はしかしギリシアにおいてはあくまでもひとつの方向であるにとどまる。もしこの行き方に徹するのが万事であり、これのみをよしとするなら、われわれは生命や物質の正体があるいはつきとめえたとしても、思想の問題として考える限り生命概念や物質概念の貧しさに驚かされるのではなからうか。

ギリシア人は「いのち」をたゞ単に漠然と感じとり、あるいは意識するといった地点にとどまらず生命をも含めてプシューケーの総体を肥やすことに執念を燃やしつづけた。そして前代の蓄積の上に立って、そのときどきに、ある天才的な思想家を得て、魂と肉体・精神と物質を「発見」し、さらに特定された意味での生命と物質の概念についても、その何たるかを明確にする途を拓いたと考える。

## 2. 牛田 徳子 知性とロゴス

——古代ギリシアが発見したもの——

知性とロゴスという観念は、ギリシアの精神が自らのうちに発見して以来、現在にいたるまで、もともと長く、またもつとも頻用されて来た数少ない観念のひとつである。

この論文にはギリシアの精神がはじめてどのような自覚をもって、またどのような知的努力をもってそれを掘り起こしたかが示されている。次にその概要を述べると……

この知性とロゴスの自覚的な形成こそ、「情報系としての人間」とこんにち表現されているものの根源にあるものとして捉えられねばならないと著者はいう。

さて、情報はそれ自体としてはひとつで変わらないが、いくらでもそのコピー——印刷物であれ、DNAであれ、子孫であれ——、言い換えれば自分のハードな担い手を作ることができるという特徴をもつものである。哲学的な意味では「情報」はまだ未熟な言葉であつて、おそらくそのあるべきところに納まるにはかなりの時間がかかることを認識しておかなければならないであらう。

生命や人間に関しても情報概念がまだ流動的なのは明らかであるが、分子生物学の急速な成果によって遺伝情報の存在がかなりの程度たしかめられている。しかしとくに人間の問題を考えてゆくためには、遺伝外情報——さまざまな文化形態というものを考慮に入れなければならないと言われる。つまり人間の領域においては基本的には遺伝子に負うところの生得的情報と、文化に負うところの経験的学習的情報が区別される。

文化情報系でもあるような、高度に知的な人間、その人間とは何かという問題はこんにち大きな課題になっている。それは「こころ・精神」とは何か、心身関係とは何か、人間が生命、自然、宇宙のなかにどう位置づけられるかという、実は遙かな古代から人々が考え続けた基本的な哲学的問題と密接に関連しているのである。

それゆえ、われわれは「情報系としての人間」への手掛かりを身ぎかに持っているのではなからうか。それは人類の精神の歴史ではないか。なぜなら精神史とは、人類がものごとろについて以来「人間とは何か」を求めつづけてきたことの記録である。

人類以外に、自らを問いつづけ、それを記録に残したような生物がいるだろうか。人間はまさに「文化情報系」であるが故に、自己の精神を自覚をこめて形成し、そのことの証言を現代のわれわれに伝えることができたと言えるであろう。この証言こそ「情報系としての人間」の一つの有効な手掛かりとなるであろう。そして精神史の第一歩は自然のなかで生きていた人間が自然に目覚め、同時に自己に目覚めたことを証言した古代ギリシア人によって確実に始められたのである。この覚醒の意識はたえず彼らを促し、「人間とは何か」、「自然とは何か」と問わせつづけ、遂には彼らの内なる精神に向けて、ゆるぎない「知性」（ヌース）、「ロゴス」の発見にまで導いたのである。

# V. 和辻哲郎の「人間の学としての倫理学」を読んで （今何故に和辻倫理学なのか）

和辻哲郎 1889（明22）～1960（昭35）  
兵庫県に生れ東大卒。京大教授を経て東大教授（1935～49）。はじめニーチェ（1844～1900<sup>独</sup>）、キエルクゴール（1813～55デンマーク<sup>独</sup>）らのいわゆる実存哲学の紹介（24才の頃）、それは決してヨーロッパの類書を真似た未熟な書ではなく、当時の欧州の水準を抜くものであった。ついで日本の芸術、文化の再発見の試みなどを通して大正期的人格主義、教養主義の形成に寄与、その後東西の思想文化の精神史的研究に進み多くの業績を遺した。



昭和18年ごろ

後列 向かって左より 岩波茂雄 和辻哲郎 武見太郎  
前列 向かって左より 鈴木大拙 牧野伸顯 西川幾多郎  
銀座浜作にて

和辻哲郎全集より転寫  
若き日の武見太郎が先哲の間にあられるのも興味深い

また実存哲学のハイデガー（1889―1976<sup>18</sup>）の刺激と影響のもとに独自の風土論的文化論を展開し和辻倫理とよばれる独自の倫理学体系を形成した。

その倫理学の特長は倫理を人と人との間柄の理法として捉えようとした点にある。

これから述べるのは和辻倫理学の主要著作「人間の学としての倫理学」の要旨の叙述である。

和辻哲郎は類い稀な学徳を兼備された名教授であり、多彩、非凡、独創的な天稟に恵まれた人間の中の人間であつた。

その方が苦心に苦心を重ねて、繰り返し論述されたところを、はるかに簡単に、また平明に叙述するというごときことは、到底浅学の身の及ぶところではない。しかし、「人間」を考える上で和辻の思索の大筋をきわ立たせて、それをたどりやすくするということは非常に意義あることと信ずるのである。

### 1. 「人間」という言葉の意味

言海によれば人間とは「よのなか」「世間」を意味し「俗に誤つて人の意となつた」とある。また広辞苑によれば人間的とは人間に関するさま。動物的、機械的などに対して人の行為、感情の人間らしいさま。特に思いやりがあることなどという。

しからば、人間という言葉の本来の意義はドイツ人のいわゆる *das Zwischen menschliche* すなわち社会にはかならず、それが誤つて *der Mensch* の意に転化し、両語の区別が無視せらるるに至つたということになる。

人が人間関係においてのみ初めて人であり、従つて人としてはすでにその全体性を、すなわち人間関係を現わしているとしてよいならば、人間が人の意に解せられるのもまた正しいのである。

そこで我々は人間という言葉の意味を歴史的に考察することによつて、そこに我々の人間の概念を確立しようと試みるのである。

元来我々の用うる言葉のうち *anthrōpos*, *homo*, *man*, *Mensch* などに最もよく当たる言葉は「人」及び「ひと」である。すでにシナの古代において人は「万物の霊」あるいは生物中の「最靈者」であり、人の人たるゆえんは二足にして毛なきことではなく、まさに「弁（あるいは言）を持つこと」（荀子、非相篇<sup>19</sup>）であつた。この二つの規定はギリシア人が *anthrōpos* に与えた規定と明白に合致する。

日本人はその文化的努力の初期において、かくのごとき規定を有する「人」の語を学び、そうしてそれに「ひと」という日本語をあてはめたのである。

しかしこの人という言葉も精密に見れば、すでに *anthrōpos* や *homo* と異なつた意味を担つている。それは「ひと」がおのれに對するものとして「他」を意味するという点である。「人」の物を取る（他人の意）。われひとともに、ひとは云う（世間の意）。即ち他者に對するわれ自身が同様に「ひと」である。「ひと」を馬鹿にするな……など。

こうして見れば「ひと」という意味は自、他、世人の意味を含蓄しつつ、すでに世間という意味さえも示唆しているのである。「人」という語のこの特殊な含蓄はこの語に「間」

という語を添加して「人間」という語を作っても、決して消えていくものではない。人間は単に「人の間」であるのみならず、自、他、世人であるところの人の間なのである。かく考えた時我々に明らかになることは、人が自であり他であるのはすでに人の間の関係にもとづいているということである。人は世間において人であり、世間の全体性を人において現わすがゆえにまた人間と呼ばれるのである。一人の人といえどもそれが人である限り、すなわち言葉を持つ限り社会を個人において現わしているものであり、従って人間と呼ばれてよい。

かく見れば「人間」を「世間」と「人」との二重の意味に用うることは、人間の本質を最もよく言い現わしたものと言わねばならぬ。

## 2. 「世間」あるいは「世の中」の意義

我々は前に人間という言葉の本来の意義が「よのなか」

「世間」であるということ指摘した。

その「世」とは何であり、「中」「間」とは何であるか。「世」の一語によってもすでに人間の共同態が意味せられている。しかるにこの語と結合せられた「間」及び「中」という言葉がそれ自身また人間関係を意味しているのである。

日本においては社会という訳語が用い始められるまでは主として世間、世の中という言葉によって社会を言い現わしていた。世間、世の中という言葉は社会の意を現わしつつ、なおその上に古い伝統に従って何らか場所的なもの、耐えず推移するものという意を含んでいる。

世の中は行為的な連関として必ず「間」「中」というひろがりの意味するとともに、また同じく行為的な連関であるがゆえに必ず移り変わるものである。

世間、世の中という言葉の上述の如き意味は人間存在の歴史的、風土的、社会的性格を捉えたものとして十分尊重に価する。しかもそれが人間という言葉の本来の意義であったのである。そこで我々は以上のごとき言葉の意味の上に世間、世の中の概念を作り上げる。

世間あるいは世の中とは遷流性及び場所性を性格とせる人の社会である。

あるいは歴史的、風土的、社会的なる人間存在である。

我々は人間の概念を、世の中自身であるとともにまた世の中における人であると規定した。今やこのように世間、世の中の概念が定まるとともに、我々は人間のこの側面を人間の世間性として言い現わすことにする。それに対して他の側面は人間の個人性と呼ばれるべきであろう。

人間存在はこの両性格の統一である。

それは行為的連関として共同態でありつつ、しかもその行為的連関が個人の行為として行なわれる。それが人間存在の構造であり、従ってこの存在の根底には行為的連関の動的統一が存する。それが倫理の概念において明らかにさせられた秩序、道にほかならぬ。

しかしそれならば倫理は「存在」の根底であって「当為」ではないのであろうか。一体「存在」とは何か。また「人間存在」とは何か。seinと sollenとの区別によって言われることは、ここには通用しないのであろうか。

### 3. 「存在」という言葉の意味

我々が「がある」に当てて用いる漢語は「有」である。有は決して「である」の意味を含まない。有に對する言葉は無であるが、これも「がない」であつて「でない」ではない。そこで「がある」を取り扱うオントロギー（存在論）は「有の学」あるいは「有論」にほかならない。一切の「がある」すなわち一切の「有」に関して、その有り方を明らかにし、それによつて哲学の問題を解こうとするのが有論である。

しかしかくオントロギーを「有論」として規定するとともに、我々はこの「有」という言葉に導かれてさらに一步を進めることができる。なぜなら「有」は「がある」を意味すると同じ強さでまた「もつこと」(haben)を意味するからである。我が有に帰すといふごとき用法がそれを明白に示している。所有は有る所のものを意味するとともにまた有たるものをも意味するのである。

以上のごとく「がある」ことは人間が有つことであるとするれば、人間があることはいかに解すべきであらうか。人間自身は人間以外の何者にも有たれるのではない。市有人は市に人があるを意味するとともに市が人を有するを意味する。

有つという行為をなし得るのはただ人間のみである。従つて人間があるのは人間が人間自身を有つことであると見られなくてはならぬ。そうしてまさにこの点に人間があることの特徴が存する。

一切の「がある」は人間が有つことを根底とし、そうしてかく物を有つ人間があることは人間が己れ自身を有つことに

ほかならぬとすれば、「がある」の学である有論は究極において人間が己れ自身を有つことにまで突き入らねばならぬ。そして、人間が己れ自身を有つことを言い現わす言葉がまさに「存在」なのである。従つて我々が存在をいふとき、それは厳密に人間存在を意味している。

以上によつて我々は倫理、人間、世間、存在という四つの根本概念を規定した。倫理とは人間共同態の存在根底であるといふ最初の規定はここに至つてようやく明らかにせられたと信ずる。倫理学はかくのごとき倫理の学であり、従つて人間存在の学でなくてはならぬ。

倫理とは人間共同態の存在根底として種々の共同態に実現せられるものである。それは人々の間柄の道であり秩序であつて、それあるがゆえに間柄そのものが可能にせられる。倫理とは何ぞやといふ問いにおいて問われていることは、まさにこのような人間の道にほかならぬ。

しからば哲学はその根底において人の学であり、そうして「人」は單に思惟する自我ではなくして、思惟の主体たる感性的、自然的なる「有」なのである。

以上1-3は「人間の学としての倫理学」(西田幾太郎先生にささぐ)第一章 人間の学としての倫理学の意義、その十一項目のうちの一部である。

### 4. 「生」の哲学と人間性について

#### 「生」の哲学

和辻はその全集第9巻「人格と人類性」生の哲学の項で、

生物学的倫理学を作り出した者は決してスペンサー（1820-1903英）やダーウィン（1809-82英）などではない。両者の研究は生命価値を根底に認めてそこから出発するというのではなく、逆に伝統的な英国の功利主義的道德説や機械論的生命観を前提とし、その上で生物学的進化論的問題を取り扱ったのであるといっている。（傍線は編者）

しかし生の過程を機械論的に見、「有用なもの」が選択され、保存されるというとき考え方からしては、生の価値は把握せられない。生の価値が快や有用の価値よりも根本的なものであることを洞察するに至って、初めて生の価値から道德的価値を、また生の法則から倫理的規範を導出する試みが成立したのである。かく「生」を根源的現象とする生命主義的な立場はショーペンハウアー（1788-1860独）ニーツシェさらに新しくはベルクソン（1859-1941仏）などに代表せられる。

人間性に関する和辻のヘルダー（1744-1803独）  
解釈について 小田部 胤久<sup>24</sup>

人間性とは人と人とが相交り伝承を伝え、また受けるという教育的な人間関係の全体が人間性の歴史を形成するのである。

人間性（Mensch・heit）とはわれわれを人たらしめるところの個人の共働きにはかならない。各人はただ教育によってのみ人になる。そうして人類の全体はただそういう個人の連鎖においてのみ成り立つのである。教育はもともと模倣と

練習にはかならないが、これは模範として先にあるものが模倣として後に来るものの中に移り行くことであって文字通り伝承である。

すなわち伝え（mitteilen）または承ける（aufnehmen）ことである。この承けつぐ力が有機的な力と呼ばれる。それによって第二の創造（Genesis）が行なわれ、その成果が文化として成り立つのである。……かかる伝統の連鎖を追跡する歴史哲学が真の人類史となるのである。このように和辻はヘルダーの核心的な部分を短い言葉でしかも的確にまとめている。

## 5. まとめ

和辻哲郎の倫理学は何よりも人々のあり方の社会的次元を根本的な出発点とする。和辻が倫理学を「人間の学」と呼ぶとき、その「人間」には彼独自の意味が込められている。それは「世の中自身であるとともに、また世の中における人」、言いかえれば諸個人の間の間柄、世間と個人という二つの意味を統一する概念である。人間は徹頭徹尾、すでに他者との間柄を有する者として扱われることになる。

原田熙史はその「和辻美学の先駆者達」において次の如くのべている。

和辻が何かを語りかけるとき人間、自然を含むいわば存在間の「コミュニケーション」（親交）が促す「いたわり」とも覚しき温もりの感情が共存する。

和辻の意識の中にも常に強者（支配者）ではなく弱者への「保護者」あるいは「看護者」たることを願う強烈な願望が

潜んでいた。

彼はすでに半世紀前、幾何学的シンメトリーに代表される征服者的西洋美学を排し、自然の統御ではなく、それを「看護する」人工の美学を、また自然に法則を強要するのではなく、むしろ人工を自然に従わしめる「呼応の美学」を提唱していた。

和辻は人倫についても同様、それが人と人との間柄、関係性であることを説き続けたが、こうした存在間の「いつくしみ」を介した感情の美学を論者はその先駆的役割に身を賭した先人として、早くはラフカディオ・ハーン（1850-1904）、わが和辻哲郎、鈴木大拙（1870-1966）、そして今世紀の代表的彫刻家ヘンリー・ムーア（1898-1986）などを思い浮かべることができるといつている。

なぜなら、彼らはいずれも基本的理念において強者よりもむしろ弱者を、一よりも多を、そしてあらゆる存在における相即的關係性を求めてはばからなかったからである。

ハーンにあつてはその感情の美学のキーワードは「テンダーネス やさしさ」、和辻のそれは「間柄」、大拙においては「即」、そしてムーアのそれは母なる形式であつた。

#### カントの石棺に彫られた墓碑銘

「思えば思うほど、わが心を驚きと畏ふのいや増す気持ちで満ちたすふたつのもの…天上の星ちりばめたる大空と、わが心のうちなる道徳法則」

和辻はそのカントの実践理性批判（全集第九巻）の結びの章にこの言葉をかゝげて次の如く述べている。

いずれも暗黒に包まれたもの、あるいは視界外にあるもの

ではなく、我々の前に炳乎として見ゆるものである。我々はそれを我々の存在の意識と直接に結合する。星の空が示すものは肉体的な我々を包むこの宇宙の無際涯の壮大さであり、道徳法則が示すものは、人格的な我々を含む真に無限な本体界の深さである。

第一の無数の世界群の展望は、わずかの間この宇宙の一点に生きている動物としての我々の価値を、まことに惨めなものに見せる。

しかるに第二の展望は、叡知としての我々の価値を、我々の人格性によって無限に高める。この人格性において道徳法則が動物性から独立な、さらに全感性界から独立な生を我々に啓示するのである。

#### VI. あとがき（インフォームド コンセントについて）

近頃インフォームド コンセントの問題がとり上げられているが、(1) 医療行為の対象である人間をどうみるか、(2) 医師と患者の関係をどうとらえているべきか、実存の哲学を背景にしたヤスパースの医療の倫理はこの問題への指針を与えるものであらう。更に倫理を人と人との間柄の理法としてとらえようとした和辻倫理学はその基本となるべきものと考えられる。

ここで杉田勇氏の「医学と哲学、ヤスパースに学ぶ」<sup>(26)</sup>よりその要約をのべて、この小論の「あとがき」として追加する次第である。

ヤスパース（1883～1969<sup>独</sup>）は本邦にキエルケゴールを紹介した和辻と殆ど同時代の人である。あくまで人間の実存の条件を問いつめていったすぐれた思想家である。医師であり哲学者であつた人の代表といわれ、若い時既に精神病理学總論の著述があるのでも知られている。

ヤスパースの実存哲学の思想はカント、キエルケゴール、ニーチェ、フッサール（1859～1938<sup>独</sup>）から影響をうけて形成されたものといわれる。

彼は人間を現存在（ダーザイン）即ち生物学的存在、意識一般、精神としてとらえ更に人間を実存としてとらえた。

ヤスパースの実存とは

1. 実存というものは客観化出来ないものである。
2. 我々がものを考えたり行動する場合の根源である。
3. それは自己自身にかかわる、そうすることによって超越者にかかわる存在である。

3番目の実存の規定はキエルケゴールの「死に至る病」<sup>17</sup>から来ているといわれる。即ち私たちひとりひとりが他と取り替えることのできない絶対的な個としての自分に気付き本来の自己自身に立ち戻ったとき、自分という存在が何かによって授けられ、贈与されたものだということが意識にのぼる。このとき自分を越えたある超越者が覚知されるという。この超越者はまた包括者ともいわれる。

ヤスパースの医療倫理の根本は患者の人間性を守ることであるが、これは同時に医師自身が人間性を失つてはならないということを意味している。

## ヤスパースの限界状況

ヤスパースは「哲学的自伝」において自己の哲学の「かなめ」を限界状況と交わりの二つに置いている。この二つは「実存開明」<sup>22</sup>においてまさしく本格的に考察されている事項である。特殊的限界状況として死、苦、争、責の四種類が数えられている。これらは人間がどうしてもまぬがれることの出来ない壁のようなものである。（小倉志祥<sup>27</sup>）

このことから医師と患者の関係は最終的には個と個、実存に対する実存の関係となってくる。実存と実存との交わり、コミュニケーションにおいてはじめて現実存となる。ではこの実存の交わりを可能にするものは何か、それは人間にとつて避けることも乗り越えることも出来ない死とか病苦とかいった限界状況である。人間はそういった状況内存在なのである。

そして人間のうちなる実存を目ざめさせるものが、ほかならぬ限界状況であるから、医師は治療の段階において単なる技術者ではなく実存に対する実存でなければならぬ。医師もまたいずれは自分も病み看取られる。主客は転倒する。ヤスパースは医師と患者は二人でありそれは運命をともにする伴侶であると言っている。

杉田氏はインフォームにせよコンセントにせよ意識一般の立場にとどまって実存の段階にまで自分というものが降りて来るのでなければ十全なインフォームド コンセントとはいえないのではないかと述べている。

# 引用・参考文献

1. 新・岩波講座 哲学 岩波書店 (1986) 巻頭言より引用
2. 金子武蔵 和辻哲郎全集 第九巻 解説 岩波書店 (1989)
3. カント Kant, Immanuel (1724~1804)  
野田文夫 カントの生涯と思想 世界の名著 32 中央公論社 (1968)
4. フォイエルバッハ Feuerbach, Ludwig (1804~72)  
岩波哲学小辞典 岩波書店 (1988)  
フォイエルバッハ全集 第16巻 死と不死 (解題) 船山信一訳 福村出版 (1974)
5. キケロ Cicero, Marcus, Tullius (前106~43)  
鹿野治助 古代ローマの3人の思想家 世界の名著 13  
ヘルダー Herder, Johann (1744~1803)  
登張正夫 小原浩 ドイツ・フマニズムの一系譜 世界の名著 続7
7. マルクス Marx, Karl (1818~83)  
鈴木鴻一郎 「資本論」とはどういう書物か 世界の名著 43  
和辻哲郎 講演筆記 マルクス主義の倫理的批判 和辻哲郎全集 別巻 二
8. 梅原猛 デカルト哲学の罪「脳死、ソクラテスの徒は反対する」より 文藝春秋 第68巻第13号 1990
9. デカルト Descartes, Rene (1596~1650)
- 野田文夫 デカルトの生涯と思想 世界の名著 22
10. 大場健 環境と人間 新・岩波講座 哲学 6 物質生命 人間
11. 坂本百大 人間機械論の射程 新・岩波講座 哲学 6
12. 利根川進 立花隆 「生命の神秘」はもはや存在しない?! 文藝春秋 第68巻第1号 1990
13. 北島美雪 物質生命概念の起源 新・岩波講座 哲学 6
14. 牛田徳子 知性とロゴス 新・岩波講座 哲学 6
15. 和辻哲郎 「人間の学としての倫理学」 和辻哲郎全集 第九巻
16. ニーチェ Nietzsche, Friedrich Wilhelm (1844~1900)  
手塚富雄 ニーチェの人と思想 世界の名著 46  
和辻哲郎 ニーチェ研究 「この人を見よ」について 和辻哲郎全集 第一巻 附録  
西尾幹二 和辻哲郎とニーチェ 和辻哲郎全集第1巻 月報1.
17. キエルケゴール Kierkegaard, Søren Aabye (1813~55)  
和辻哲郎 ゼエレン・キエルケゴール 和辻哲郎全集 第一巻  
梶田啓三郎 キルケゴールの生涯と著作活動 世界の名著 40  
梶田啓三郎 訳 死にいたる病 世界の名著 40  
村上恭一 和辻哲郎「ゼエレン・キエルケゴール」再考

— 魂の告白録 和辻哲郎全集 第1巻月報1, — 初版本に  
みる生けるものと死せるもの 和辻哲郎全集 第21巻  
月報21

18. ハイデガー Heidegger, Martin (1889~1976)

原佑 ハイデガーへの対応 世界の名著 62

大橋良介 ハイデガーと和辻哲郎 和辻哲郎全集第1

3巻月報13

19. 荀子

沢田多喜男 小野四平訳 荀子 世界の名著 10 (諸

子百家)

20. スペンサー Spencer, Herbert (1820~1903)

清水幾太郎 コントとスペンサー 世界の名著 36

21. ダーウィン Darwin, Charles (1809~1882)

今西錦司 ダーウィンと進化論 世界の名著 39

22. ショーペンハウアー Schopenhauer, Arthur (1788

~1860)

西尾幹二 ショーペンハウアーの思想と人間像 世界の

名著 続10

23. ベルクソン Bergson, Henri (1859~1941)

沢瀉久敬 ベルクソン哲学の素描 世界の名著 53

24. 小田部胤久 和辻哲郎のヘルダー解釈について 和辻哲

郎全集 第9巻月報9

25. 原田熙史 和辻美学の先駆者達 和辻哲郎全集 第8巻

月報 8

26. 杉田勇 橋本信也 (対談) 医学と哲学—ヤスパースに

学ぶ— 日本医師会雑誌

Vol. 106 No. 6

平成3年

27. ヤスパース Jaspers, Karl (1883~1969)

小倉志祥 ヤスパース 世界の名著 続13

28. フッサール Husserl, Edmund (1859~1938)

細谷恒夫 現象学の意義とその展開 世界の名著 51

# 「母恋」

曾根 清孝

(曾根医院)

吾が住める街に母恋の駅舎あり

別れて住める老母やいかにと

愛子なる里の病金にあずけし

老いたる母やいかに思はむ

塩水と涙は同じ眼にしみぬ

老母を見舞いし五月雨の丘

愛子なる里に伏せにし老母訪えば

涙滂沱と頬をつたわる

手を出せと言われさし出す手を握り

逆にはげます老いし吾が母

# 「古稀」

古稀の春吾が初旅は老母を訪う

大股で歩く吾が脚古稀の春

老母に会う只それだけの春の旅

# 八十八富士山頂を極める

高 橋 陽 夫

(高橋医院)

平成四年七月三十日、八合五勺、標高三四五〇メートル付近のきつい岩場、通称胸突き八丁で家内の手を借り

一寸待って

手を借して頂戴

「いよいよ」上れた

同月三十一日午後二時、標高三七四〇メートル、富士山頂浅間神社奥宮で、高齢者登拝簿に記帳を済ませ

人生八十八

富士山頂を極め

めでたけれ

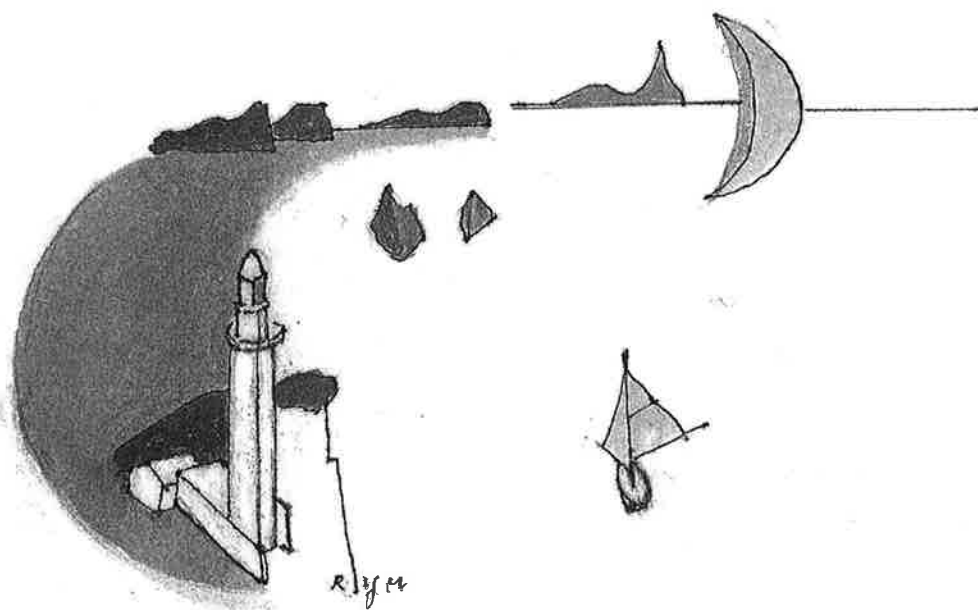
同日午後三時半、高山病をよく克服し、重い足にはつばをかけ、ついに、剣ヶ峰の日本最高地点三七七六・二四に到達し

意気軒昂

剣ヶ峰に立つ

八十八かな

(一九九二・八・二〇)



## もう一つの風流世界

加藤 治 良

(加藤内科医院)

「風流」という語は中国から渡来した。『漢字源』には、①先人の遺風。昔から残された習慣、気風。②世俗的なことをすてて、高尚な遊びをすること。③あじわい、おもむき。④ほんのりとした輝きや気配。⑤男女間の情事。⑥日本語として特有な意味では——風がわり。とある。

さて、人間の歴史をさかのぼる幾千年の昔から、「ふね」には、その時代その時代最高の科学知識と技術が結集されてきた。湖沼・河川・海洋の別なく、風雨波浪や潮流との闘いと利用。目的のための機能と合理の一致。さらには主人たるべき人間の意志と情緒を満足させるための「ふね」自身の人格——英知と感性までも要求されてきた。丸木舟から現代の巨大タンカーや水中翼船にいたるまで、おのずから一種の形態美を生み出し、特有の「ひと」くさい風貌と体臭を漂わせているのはそのせいなのだ。

### □ 艦型について

十九世紀に入り、大帆船時代が終りを告げ、新しい動力源と鋼鉄の骨格・皮膜を獲得するや、とりわけ“いくさぶね”軍艦における進歩と変貌は目ざましかった。

第一次大戦後、ワシントン条約（大正十年）とロンドン条約（昭和五年）によって、世界は（ネーヴァル・ホリデー）といわれる軍縮時代に入るのだが、列強にとっては制限内での新巡洋艦設計競争の十年間でもあった。対英米六割の劣勢に甘んじざるを得なかった日本海軍ではあったが、平賀博士を頂点とする設計陣の偉大なる才能は、個艦優越をモットーとして心血を注ぎ、素晴らしい名艦を誕生させた。

大正十五年にデビューした七〇〇〇トン級の「古鷹」型と昭和二年の「青葉」型。さらに昭和四年に完成した一万トン級「妙高」型である。（条約型重巡）

列国の水準をはるかに越えた新巡洋艦の出現に世界の関係者は目をみはり、息をのんだ。性能・装備の優越に加えて、合理に基づく独特な艦型ラインは当時の設計常識からみるなら、むしろ“風がわり”ですらあった。緻密計算による贅肉のそぎ落としと凌波性への考慮が生み出した、艦首から艦尾へと流れる波形甲板と鋭い艦首シエアーは、精悍にして優雅、黒豹の姿態を想わせた。過不足のない角度で後方へ傾斜する太い第一煙突と細い第二煙突が、艦橋の量感とあいまって、重厚と軽快さの絶妙な調和と均整の美を造り上げた。

独創的な艦体設計の基本は、巨大戦艦「大和」「武蔵」の上甲板にも長大な曲線の流れとなって鮮やかに描かれているが、この“日本スタイル”は世界の艦船ファンを魅了した。

「艦型美」という言葉がある。妙高型というならば、強靱な意志・決断を示す直線と柔軟な感性を匂わせる曲線の微妙な配分が、重巡の個性までも造型し得た感動にほかならない。力ある者の“ゆとり”。智者が放つ“さりげない華やかさ”

これは一個の芸術作品なのだ。大仰な誉め言葉ではない。惚れたがゆえの素直な印象表現に過ぎない。

妙高型につづく「高雄」型「最上」型にも共通して言えるのは、艦尾方向から斜め約45度で眺める上甲板ラインの曲線が実に魅力的なのだ。白く長い航跡波を曳くならば、まさに颯爽たる「風流武者」。このような絵になることは百も承知だった設計陣の、見事な遊び心の冴え。

日本の師匠でもあったイギリス海軍は、頑固なまでに直平角型の艦容を崩さない。自尊の気風、伝統尊重の然らしむるところか。とならば、彼らもまた風流の心を解するものといえるだろう。戦艦「ロドネー」「デューク・オブ・ヨーク」の艦橋には西欧の古城の風格を偲ばせるものがある。

#### □ 艦名について

西欧では、主力系の軍艦名に権威ある人物や提督、都市、地方の名前を冠したものが多く。たとえば、

「ビスマルク」「アドミラル・グラフ・シュペー」(独)

「ローマ」「ヴィットリオ・ベネト」(伊)

「ジャン・バール」「ダンケルク」(仏)

「ネルソン」「プリンス・オブ・ウェールズ」(英)

また「ヴァンガード 陣頭」「レパルス 撃退」などの成語、  
「カレジアス 勇敢な」「グロリアス 赫赫たる」のような形容詞名も英語ならではの命名だろう。

米国は戦艦に州名、重巡洋艦には都市の名をつけた。

さて、日本海軍。戦艦には旧国名、重巡洋艦には山、軽巡洋艦には川の名前を与え、一九〇隻を越えた駆逐艦は気象・天象と植物の名を片仮名で左右舷側に書き入れた。航空母艦

には龍・鶴・鳳・鷹の美称。潜水艦は伊・呂・波の各号別にナンバーを。小艦艇たち——海防艦、敷設艦、特務艦、砲艦は島・海峡・岬・名所。水雷艇には鳥の名をつけた。

日本列島の地図一枚と歳時記一卷——この中から日本海軍艦艇の殆どが誕生したのである。

#### ○戦艦

金剛 霧島 比叡 榛名

\*この四隻は巡洋戦艦として誕生。山の名。

扶桑(大和島根の別称) 山城(京都府南部)

伊勢(三重県) 日向(宮崎県)

長門(山口県西部) 陸奥(青森・岩手・宮城)

大和(奈良県) 武蔵(東京都・埼玉県)

#### ○重巡洋艦

古鷹 加古 青葉 衣笠

\*軽巡計画のなかの一艦だった「加古」は川の名。

妙高 那智 羽黒 足柄

高雄 愛宕 鳥海 摩耶

最上 三隈 鈴谷 熊野 利根 筑摩

\*この六隻はロンドン条約のため軽巡として計画したので川の名。利根型は最上型の準姉妹艦。

#### ○軽巡洋艦

天龍 龍田(次の五五〇〇トン級のプロトタイプ)

球摩 多摩 北上 大井 木曾

長良 五十鈴 名取 由良 鬼怒 阿武隈

川内 那珂 神通

\*球摩型、長良型は三本煙突。川内型は四本煙突。

夕張

\* 建造費節減のための実験艦だが、歴史的な名艦。

阿賀野 能代 矢矧 酒匂 (昭和十八年建造)

大淀 (昭和十九年九月最後の連合艦隊旗艦)

香取 鹿島 香椎

\* 公式艦種は練習巡洋艦。武神の名。

### ○駆逐艦

一八九三年、ドイツ水雷艇を駆逐する目的でイギリス海軍が創りだした艦種。日本海軍も大正中期から多数建造し改良を重ねつつ昭和十六年を迎えた。高性能魚雷が主武器。一五〇トン前後の彼等は高速にして俊敏、よく訓練された獵犬さながらのイメージを持つ。同型四隻で一駆逐隊、四隊で一水雷戦隊を編成し、戦隊旗艦に五五〇〇トン級の軽巡があてられた。日華事変以後の作戦に参加した駆逐艦を建造年次順、グループ別に追ってみる。(一) 内の数字は隻数。

縦型(21) 若竹型(8) 峯風型(14) 神風型(9)

睦月型(12) ……以上の五型は大正末期の建造。

吹雪型(24) 初春型(6) 白露型(10) 朝潮型(10)

陽炎型(18) 夕雲型(20) 秋月型(12) 島風型(1)

松型(19) 橘型(13) \* 吹雪型は別称を特型駆逐艦。

では、彼らの名前を同系、同属語別に書き並べてみよう。あえて振り仮名はつけない。もちろん純正日本読みである。

◇磯波・浦波・浜波・早波・岸波・長波・沖波・大波・高波

玉波・涼波・清波・綾波・敷波・巻波・藤波・荒潮・黒潮

親潮・早潮・大潮・満潮・夏潮・朝潮・潮・漣・朝風・

夕風・不知火

◇海風・沖風・灘風・汐風・浦風・磯風・浜風・波風・帆風

島風・山風・峯風・沢風・沼風・江風・谷風・春風・秋風

野風・松風・萩風・追風・疾風・野分・朝風・夕風・初風

舞風・涼風・雪風・矢風・羽風・旗風・神風・天津風・

時津風・太刀風・嵐

◇東雲・薄雲・白雲・朝雲・夕雲・山雲・卷雲・峯雲・夏雲

秋雲・風雲・叢雲・雷・電・響

◇天霧・狭霧・朝霧・夕霧・白露・霞・朧・春雨・五月雨・

夕立・村雨・時雨・初霜・秋霜・朝霜・早霜・清霜・初雪

白雪・深雪・吹雪・霰

◇暁・曙・有明・夕暮・初春・子ノ日・若葉・陽炎

◇睦月・如月・弥生・卯月・皐月・水無月・文月・長月

菊月・霜月・三月月・新月・若月・望月・夕月・宵月

照月・花月・涼月・初月・春月・夏月・秋月・冬月

◇松・竹・若竹・呉竹・雄竹・梅・初梅・桜・初桜・橘・

梅・桐・樅・榎・榆・栗・梨・柿・桃・椿・榊・桑・杉

桧・檜・椎・樺・榎・楓・榎・榎・楠・樺・柳

◇藤・蔦・萩・薄・葦・菱・蓮・蓼・蕨・早蕨・早苗

刈萱・芙蓉・朝顔・夕顔

いかなる人の発想か知らないが、猛々しい攻めのイメージは全く浮かんでこない。祖国の自然と四季を限りなく愛した民族の心情的特性がはつきりうかがえる。いま思う。それは“侵すもの許さじ”専守本道の悲願を、一艦一艇に託しての命名ではなかったのか。

## 種田 豊君を偲ぶ

熊谷 弘夫

(熊谷医院)

焼き上がった来た種さんの骨量は意外に豊かだった。私は虚脱感の中で骨箱をたたき箸で骨と骨との隙間をつめ押し込んだ。全部納めないと彼の魂が逃げてゆくような衝動に駆り立てられたからだ。そしてやや盛り上がった骨を押さえて蓋をした。これで癌細胞は死滅し、彼は病苦から解放されたのだとほっとした。

近いうちに生れ故郷の小樽の地に埋葬されることになっている。

想えば彼との交際は四十余年の長きに亘る。初めて出会ったのは昭和二十四年の春である。北大予科の二年から三年になるときクラスの編成変えがあり私は医類三組に入り彼は一組に居た。当時私の父が小樽に転勤になり、汽車通をするところになったが、通学路が同じで同じ汽車に乗るわけだから毎日彼とかちあうのである。彼の父上は弁護士をしておられ立派な洋風の邸宅に住んでいた。私の父は判事をしていて、私の家はおんぼろ官舎であった。その頃、彼はロマン・ローラのジャンクリストフやヘルマン・ヘッセの車輪の下やデミ

アンなどを愛読していたが私は毎日ラクビーで腹をすかして文学とはあまり縁のない生活を送っていた。しかし、ドイツ語の教材でアルバート・シュバイツァの「我が少年時代」を読んだしヘッセの詩にも接し多少文学にも興味をもつて居たのである。英語の教材として教わったスチーブンソンの「水車小屋のウイル」には深い感銘を受けたので今でもよく覚えていいる。彼の家には蔵書が豊富で好く本を借りにいった。ヘッセは「青年時代」だけ完全に鋭く新鮮に体験する、そしてそれを一生の糧として食っているようなものだ」といつているが、その後の私の人生を好く表現している。予科時代とくに彼と過ごした小樽時代は古き良き時代の青春像であり、私の人生における原点とも心の故郷とも言える。

やがて医学部を卒業し医学に進む事となって以来、現実寄りの生活が続くことになって今日に至っている。彼とは好くくされ縁だと言いながらもお互いに助け合い励まし合い乍らここまで友達でおられたのは青春という原点を共有していたからだと思う。

平成元年の暮だった。ある会合の後で、ちょっと話があるというので、いつも出掛けるバァーに立ち寄った。一枚の胸部写真を取り出し「これどう思う、熊さん」という。どれどれと薄暗い照明ですかして見ると、右の肺に直径二センチ程の空洞がある。「これ誰の写真だ」というと「俺の写真だ」という。私は水割りをごつと飲みほした。第三者の写真であつたら、私は即座に「これはガンでないか 細胞診をして バイオプシーをして 試験開胸だなあ」と言っていたであろう。「いやな影だけど結核かもしれないなあ、リハン

プシンでも飲んで様子を見てみたら」とその場を取り繕ってしまった。『肺を診る会』に出して皆の意見を聞くことにして、その晩は別れた。そして肺を診る会に出席した。皆、口をつぐんで反応がない。仕方がないので酒場で言ったことと同じ意見を述べた。年を取った医者が変なことを言っているなあ、といった雰囲気である。取り敢えず直ちに細胞診とバイオプシーは必要不可欠との結論が得られ、その処置は新日鉄病院の医師団に委ねられた。共に陰性であった。数カ月が過ぎた。しかし、彼も私も不安はぬぐいきれず焦っていた。主治医の足永先生から早期に試験開胸に踏み切るべきであるとの強い意見を聞き出したのは、白鳥のゴルフ練習場での事である。彼も既に手術を覚悟していたらしく率直に応じてくれた。そして、平成二年十月二十三日に右下葉切除が行われた。最初の発見からほぼ一年が過ぎていた。扁平上皮癌で転移は認められなかった。

明けて平成三年の短い北国の夏も過ぎようとしていた頃である。「おれ時々喉に物がつかえるのだ、にぎり寿司が食道につかえて吐いてしまった」という。その頃新日鉄病院で定期的に検査を受けていたので、癒着があるのかも知れないので好く見てもらうよう促した。後になって分かった事であるが、その頃自分で食道バリウムの写真を撮って居る。今、私とその写真を持っているのだが明らかな潰瘍性の腫瘍が写っている。数日後外科の高橋先生からショックな話が飛び込んできた。食道に進行癌があり、胃にも早期癌があるという、異時性の三重癌である、切除すべきであるという。私にはもう判断がつかなくなっていた。十一月二十日、十一時間

におよぶ大手術が行われ手術は成功した。一時意識を回復したが十二月九日DICを合併して死亡した。三重癌など私は聞いたこともない勿論見たこともない、文献をあさってみたが肺・食道・胃の三重癌の症例は昭和三十三年以降三例のみである。近年重複癌の症例は確実に増加していることは予想される。癌は癌のハイリスクファクターと言われている。これらはやがて遺伝子レベルで解明されることになるのであろうが、医学が進歩し手術や抗癌剤で治癒する症例も確かに増えてはいるが、しかし癌が死亡率のトップの座を譲ることは先ずないであろう。

環境を好くし遺伝的に長生きをするネズミを飼っているある癌病理学者の述懐であるが、最後には腫瘍で倒れていくネズミをみて、老化や寿命が人間の生理的な現象であるように、癌もひょっとしたら病理的なものでなく生理的なもので、生物が天寿を全うするための必要な病気ではないかと言っているが私も同じ想いである。

私は弟を肺癌で亡くしているが、今回程のショックを受けた事はない。自分の事を分かってくれる人、味方である人が亡くなって行くのは非常に寂しいことであるが、特に同年配の友だちとあればなおさらである。彼はよくインフォームド・コンセントを口にしていたので、私は正直に病理所見を主治医から聞いた通りに伝えていた。二回目の手術の前夜のことである。訪ねてみるとモーツアルトを聞きながら安らいで居た。その曲はモーツアルトのレクイエムだったと思うのだが突然目を覚まして「私は自然の法則だ」といって死に神がやってくる話があったなあという。予科の時に大野先生から教

わった前述の「水車小屋のウイル」の話である。ちょっと気味の悪い小説だったが大自然の摂理とひたむきな人間の愛と営みが描かれ、スチーブンソンの自然描写の美しさに感銘を受けた事などを話した。「眠れるか」と聞くと先程ハルシオンを飲んだから眠れそうだと言うので、本を探して持つてくる事を約束して帰った。それが彼との最後の会話となった。まだその約束は果たしていない。

記憶はさだかではないが小説の概要を記述してみる。

『少年ウイルは父母と共に峠に近い水車小屋に住み、遠く下界に広がる平原や川や海やそのさきにある華やかな都会の生活に憧れて居た。ある日、快活で学識のある若者が宿泊しウイルの下界への渴望を聞き、夜空にきらめく星を指しながらいかに宇宙というものが大きく人間が小さいか、いかに下の平原の生活が腐敗に満ちてつまらぬものであるかを語り聞かせる。やがて父母は死に、ウイルはガッチリした長身の思慮深い青年に成長し峠の村の牧師の娘マージョリーに恋し結婚を約束する。ウイルは夢中であつたがマージョリーが庭の花を摘み取つて身近に置きたがるのを見て「花は摘み取らずに自然のままが美しい」と言い結婚を躊躇することになる。二人は愛し合いながら親しい友人として交際を続けるが、翌年マージョリーはウイルに断りなしに突然他の男性と結婚しウイルを悲しませる。それから幾年も経たないうちに、「マージョリーが死にかけていてウイルに会いたがつている、すぐ来てくれ」という使いが来て、ウイルは慣れない馬に乗つて駆けつけ、臨終のマージョリーと最後の言葉を交わし、息を引き取つたマージョリーの亡骸の許ではげしくすすり哭い

た。それから長い年月が過ぎウイルは七十二才の老人になっていた。ある夜ウイルは心身に異常を覚え頭を冷やそうと庭に出た時、見知らぬ訪問客が現れた。彼が「私は自然の法則だ。人々は私を死という。今日はあなたをお迎えに来た」と言うと、ウイルは「マージョリーが死んでから私はずっとあなたを待つていた、今の私にはあなただけが友達だ」と言つて死神に身を委ねた。

翌朝、峠の谷間には何もなかったようにいつもと同じ風が吹き下りていた。』

宇宙とか大自然に比べると人間の営みなど問題にならない。しかし人間はそれなりに愛し憎み、喜び悲しみ、楽しみ、苦しみながら人生を送る、それはそれで有意義なのではないか、一生懸命に生きたいのだから、死はその終点なのだ、そう訴えているように思う。

種さんが亡くなつてから私の心の中にぽっかりと大きな空洞がある。波久鳥の編集委員から彼についての寄稿の依頼があつたが、実はその責任を果たすことによつて穴は埋められると考へたが、予想通りには行かなかつた。やはり彼が小樽の土に帰つて、彼との約束「スチーブンソンの原書を手し

て再読すること」を果たさなければならぬのであろう。

平成四年九月三十日

# 座 談 会 親交会の未来像を語る

斎藤甲斐之助・塩沢英光・辻 寧重・畠山正照・皆川芳徳

編集委員（加藤・大久保・児玉・斎藤・沢山・三村・村井）

事務局（高橋・小杉）

平成4年7月23日 於：“しらかば”



畠 山（白鳥台医院）



塩 沢（東室蘭医院）



辻 （日鋼記念病院）



皆 川（皆川病院）



斎 藤（若草内科クリニック）

加藤 親交会も四十年を迎えるようになりますと、「親交会風」という言葉もいつの間にやら出来てまいります。本日お出でいただいた先生方は、一言言を持っておられ、言うべき事は明快におっしゃる、と伺っております。テーマが固そうに思えますが、まあ、ざっくりばんに「親交会風」に、よろしくお願いいたします。

大久保 司会進行役ということで、あれこれ考え悩んでいたんですが、結局出たとこ勝負が一番良いと思ひまして。

私が親交会に入ったのは、昭和41年か翌年ですから、約二十五年ぐらいの親交会を知っているわけです。前半の二十年というのは互助会的といいますが、親睦とかチームワークを非常に固めようとした時期のような気がします。次の十年は行事などもないへん積極的になつてきているわけですね。今日のテーマは「親交会の近未来」ですが、過去は過去としてこれからの夢、願望というところで話を進めていきたいと思っております。

斉藤先生と塩沢先生、どちらが新しい入会なんですか？ あ、塩沢先生……、じゃあ先生は今の親交会にどんな感覚を

持っております？

塩沢 医療の方もいろいろと難しい時代ですから……印象のほとんどは忘年会ですね。

斉藤(美) 開業して六年になるんですけれど、医師会は当初から入会しました。親交会というのは最初ちよつとわかりませんので、三年間ちよつと静観していたんですけれど、旅行したり飲んだり楽しそうだというんで、入ってみようかなあ」と。医師会との違いが、まだピンときていない所があるんですけど。

斉藤(甲) 僕もよくわからないんですけれどね。(笑) 医師会があつて、その医師親交会があつて、裏表みたいな組織ですよ。非常に面白いと思うんです。おそらく他にはない、室蘭方式ですか。医師会が真面目なことやって、その裏で親交会がくだけたことやるのかなあ」という解釈ですけども。(笑)

## 親交会のそもそも

加藤 親交会が何で出来たのかといういきさつについては、「波久鳥」創刊号や8号誌の座談会に、東先生のお父さんは

じめ、お年寄りの先生方が語っていられないんですが、当時は社会保障が不完全で、殊に開業医は経済保障や共済的な面では丸裸だったんですね。そこで長田先生らが中心になって、昭和27年に会員三十三人による会費積み立て組織が生まれました。

昭和40年に入つて医療危機が叫ばれ、保険医総辞退をするかしないかという瀬戸際に立たされた時、当時の斉藤会長、義寛さんのお父さんが、道医師会の席上で大見得を切つたという有名なエピソードがあるんです。「室蘭は、万に備えて、これこれこういう基金を持つている。総辞退突入あえて辞さず」と。

保険医返上は結局、実施されなかった訳ですが、室蘭市医師会のチームワークとダイナミズムがたいへん羨ましがられ、その後、斉藤会長が道の医師会長に推された所以でもあったようです。

三村 医師親交会がどんなものかと問う前に、医師会とは何か、と僕は問いたいのです。当時の厳しい医療情勢の中から自然発生的に親交会が生まれたという経緯から考えても、今、僕たちはもっとシビアな問題を背景に抱えています。

親交会がなかったならば、和やかな雰囲気雑誌を出したり、ゴルフをやったり、旅行したりするような事は恐らくないでしょうし、なくなるという感じはします。医師親交会が室蘭に特異的に存在している限りは、それを母体にして親交を重ねることは今後特に大事だと思います。シビアな問題でも、一人一人が気ままに語れる、そんな場でもあつてほしいと僕は思うんです。

**大久保** 辻先生が見えられました。今の固い話のせいか、静かに入ってこられたようで、気がつきませんでした。

**皆川** 三村先生の、その事まで話していくと、主旨から離れてゆく気がするんだけど……親交会の誕生にはある意味で医師会の動きがあつたのは確かだけど情勢が落ち着いてからもなお続いたのはどうしてかという、その辺の話ではないかと思います。

**加藤** マスコミや政治家に一步もひけを取らなかった、あの怪物・武見太郎のような人が旗を振らなかったら、医者という人種の集団意識はずっと低いままだったでしょうね。

年数がたつてくると、酒の席なんかで

半分冗談混じりで、もう打ち上げていいんじゃないか、やめたら俺いくら貰えるのかな、とか、遊ぶんだったら親交会でなくともいいんだ。という声も確かに出ていました。

**皆川** 正式には、やめようという事はなかったのですか。

**大久保** それは、ないんです。

かなり高齢の先生方の行事参加が少なくなつた、という話のときなど、体力的なこともあるし、諸事情の変わりも考えられますよね。昔の会費は三千円でしたけど、四十年前の三千円は大金でした。

私の当時の下宿料が四千八百円ですよ。保険医総辞退という時にでも毎月積立て来た先生方が、旅行したくても体力的に無理となれば、理屈の一つも出てくると思います。昔から何十年間も預けてきた利息が蓄積して、これだけの遊ぶ金になつてゐる筈だ。だから今入つて一生懸命遊んでいる人達は、まだ遊ぶだけの積立てはやっていないんだ……。

私は、そこは大目に見て貰いたいと思うんです。まあ、昔も結構楽しんでましたし、良き親交会員を育てるための真心の蓄積と私は解釈したいんです。我々は

我々で、いかに親睦といいますか、会員がまとまって楽しむかという時代に入っているのが現在だと思います。

辻先生は病院に勤務されて早々に入会して頂いたんですが、どうでしょう、今の親交会を見て、物足らないか、くだらないか……。

**辻** 親交会という実態がよくわかっていないんですが。入つて五、六年経っているわけなんですけど、僕自身は、親交会というのは開業されている先生方とか病院でも上の先生方が、ある程度親睦した方がいんじゃないかということであつたのでは、と思つていました。

僕ら病院に勤務している者はですね、特に若いうちは通常、医師会の先生方と付き合いがないですし、あまり必要も感じないんですが、だんだん室蘭が永くなくなつてくると、単純に親交会に入つていた方がいかなあという感覚でした。だから問題点は何かというのは良くわからないうんですが、いま聞いていて、何となく少し、臍げながら、わかつたような――

(笑)

**畠山** 僕は、文字通りの親交、家族含めての親交だと思つていたな。

加藤 町内でも親交会的な集まりはありますよね。付き合いつてのは、なかなか捨て難いものなんですよ。私自身は良くない方だけど。

辻 ぼく自身は社会勉強という意味合いもあります。地域の人達と付き合っているうちに色々な仕事ができるでしょうし、同じ趣味仲間もできるでしょうし、もうちょっとは人間的な幅が広がるんじゃないかという、あまり深い意味合いではないんですが。

児玉 僕も勤務医の時に入っていました。が、なにもわからないで、医師会の裏番組ということ。

勤務医の先生方に入会を勧めるときには、普通の親睦の会だと利息はつかないけども、やめた時には何らかの退職金みたいなものがつきますよと、言うしかないでしょう。年に何回か遊ぶ事もあるし五年に一回は海外旅行に行っていると。そういう会ならば——何人かは入ると思いますね。

畠山 私は、幹事・行事委員やれと言われてもう二十年ぐらいになりますが、遊ぶ会だという認識で企画して、当時の六十歳過ぎの先生方にとっても喜ばれたんで、

その気になってやってきました。そろそろ飽きてきましたけど。(笑)

大久保 そろそろ、現在の流れに入りましょうか。問題点というか、考えておられること色々あると思うんですが。

皆川 これから考えて行かなければならない問題の一つは、行事に出れなくなってきた先生がだんだん多くなってきたことですね。だから、ビール会とか気軽に

出てこれる企画をふやすとか。  
畠山 五、六年前かな、一時低金利の頃、もう元金もなにも崩すべし、そういう事を言ってた先生は結構多かったよ。

大久保 かりに四十年かけていたとしても、元金となるとせいぜいの額ですよ。今のご時世じゃ、価値あるとは言えないでしょう。

加藤 お金の話になるとね。結局は、自分の積立金額とその時々のお金と相關的な問題でしょう。使い出があるなあ、と思った時は正直、私にもありましたけどね。

沢山 昔は共済組合的なところがあつてできたんでしょう。借りたいという例もあり、借りられるという規定もあります。が、今は全くありません。それだけの金

に困る人はいないから、これまで積立てた金額の利息を利用して、いかに楽しめるかということになると思います。相당한補助ができるわけですから、有効に使うことです。

畠山 親睦に使うことですね。

沢山 親睦以外にないんです。共済はあり得ない。

大久保 昔の三千円は大金でした。それを会員から集めて銀行に預け、それを資本として、銀行から引き出せる金で保険収入がストップしても一か月や二か月は賄えるだろうという強力な武器だったんです。親交会専属の行員が一人いたくらいです。しかし、そのような異常事態に対処する方法としての意味はない。

加藤 医者の世界に、そのような事件はもう考えられませんか？ 診療報酬が半分ストップする期間がある程度続くというような。

大久保 いや、考えられます。

三村 今回の医療法改正の内容を見ても、病院の格差ははつきり出てますし、診療所への規制も強く、看護婦問題などもでてきてますし、存続できない事態だっけ起きかねない私は思っています。

齊藤（甲） しかし、現在の親交会の金額ではとてもとても。

畠山 話にならない。

三村 いま沢山先生が言われるのには五万円ぐらいの積立てでないと……。

沢山 共済組合的な色彩を出すとするのです。

大久保 それじゃ親交会でなくて損害保険をかければいいんじゃない。親交会だって旅行があるでしょう。何か事故となったら、全然できっこない。

だから、利息で、いかに楽しくやろうかということが親交会の意味でいいんじゃないですか。

畠山 僕は、利息だけじゃなくて退会したときに戻りはなくてもいいと思う。三千円しか戻らなかつた——そのぐらいに崩すつもりでもいいと思うんだ。

児玉 元金をとっておいでいたから、今こうやって出来るんで、それが元金をなくしたら大分変わってくると思うな。

沢山 現在は元金は保証されていますね。亡くなった時には規約により付加もあります。途中でやめた時と同じですがほとんどやめていったら立ち行かなくなりま

す。元金を保証しないなら、運営は非常

に楽になりますけどね。

## 病診連携のかけ橋

加藤 忘年会に出ない、旅行も行かない、ゴルフの趣味もない、「波久鳥」も読まない、そういう先生方も実際にいるでしょう。

塩沢 参加しようと思ったら、できるんじゃないですか。バス旅行だから動きは少ないし、読もうとすれば「波久鳥」だって読めるわけだし、一応送ってますから。ちよつと寂しさを覚えて、皆は何してんのかなあ、と思った時に出てこれる——そこに意味があるんで。

加藤 億劫ということもあるだろうけど、その気が起きない、興味が無い、というメリット以前の問題。

畠山 一度清算して、主旨に賛同する者でやつたほうがいいんじゃないか。

大久保 そんなこと言ったら駄目。大勢に入ってもらわないと意味ないんだから。

（笑）

加藤 どんなグループでも同じなんだけど、全員参加は御題目に過ぎない。だから一人でも多く、塩沢先生の言われた“そ

の気”ね。その気になってほしいと願うんだけど、結局は運営する側の問題点として残ってしまう。ゆるくないね。まあ、宿命でしょう。

三村 数字的にちよつとわかりませんが、医師会に入って、親交会に入っていない先生はどの位いるんですか？

沢山 開業医の先生は殆ど入っていますが、未入会は百名ぐらい、その殆どが勤務医の先生方です。

三村 一年間しかいらつしやらなくても、特典とか処遇を考えて……。

皆川 たとえば旅行なんかでも、親交会に入っていないなくても医師会全員に案内を出すとか。

三村 それやっていいんじゃないですか、若い先生方に。

大久保 病院の若い先生方もいろいろと集まってもらいますよね。お互いに言葉を交わしたり、お名前知っているだけでも——それが病診連携の基本だと思うんです。

畠山 総会に出席しても誰が誰だかわからないものね。「後席がありますよ」と言っても、癖もわからないし。

大久保 席があると言っても、遠慮して

帰ってしまうでしょう。

**辻** 若い人達は一年か二年で戻ってしまうので必要性を感じないんです。何年か居ると、そういうことも必要なあとと思う時期が来ますけどね。

**大久保** 海外旅行は五年ごと節目の年にやっているんです。どうですか、先生の病院で、親交会の会員だからといって日時の都合できますか？ 今回でも勤務されている先生方の参加はないんです。

**辻** 指定休とか有給とかあるわけですけど、ある程度予定してくれないと取れないんです。

**大久保** 半年か一年前に企画しましたらどうでしょう。安い料金で海外旅行ができるということ。

**ビールパーティー**や懇親会の後でも、顔を合わせて話す機会さえあれば、こういう行事にも気軽に参加していただけると思います。

**加藤** たとえばビールパーティーに日鋼さんは五名と割り当て参加していただくということは？

**辻** 総会の時に院長命令で行ってましたけど。間違つて、親交会のビールパーティーに行つて飲ませてもらったこともある

んです。

**畠山** それを俺はOKしたいと思うんだワ。会費は取りますよ。千円か二千円だけ。

**大久保** 取ったほうがえって気楽でしょう。大勢来てもらうと楽しいな。先生なんか、港祭になれば一番先頭になってやつてるでしょ。だから、先生がねリーダーになって半纏着てもいいから引つ張つてきてくださいよ。(笑)

**辻** うちの病院に「霧笛会」というのがあるんです。昭和22年ごろ戦後の大変な時期にお互い助け合おうという主旨で松岡院長が作った会だそうです。殆どの職員をカバーしているんですけど、毎月千円づつ出して色んな事を企画してやる訳です。

僕が幹事長なんです、いかに盛り上げるかが大変なんで、親交会もそうだと思うんです。

**児玉** オープン病院というのがありますが、ね。函館とかいろんな所でやっていますが、結局その病院の出身者以外は利用しにくいようです。そういう垣根というか取り払つてやつて行くのが親交会だと思うんです。市立だろうが日鋼だろうが、新日

鉄だろうがどこだろうが、皆ごちゃ混ぜになつてほしい。親交会というのはそういう点でも大いに貢献できると思うんです。

**大久保** いい案ですね。市立病院の忘年会に、私たちも一升瓶ぶら下げて行つていいんじゃないかな。

**児玉** そこまで行かないから、親交会でやりましょう。

**加藤** 例えが変だけど、名のある料亭や待合は一見の客をとらなかつた。わが親交会は「一見の客、歓迎します」。

**皆川** よそでも室蘭を真似て作つてみた医師会があつたようですがね、会員が少ないせいか直ぐつぶれてしまったそうです。初期に一生懸命やられた長田先生とか大岩先生とか、そういう先生の熱意が四十年間を可能にしたんですね。

僕の親父もやる方だから、いつも楽しみにしていた。

## 有用・無用論

**大久保** じゃ、現のところはそれ位で次に進みましょうや。近未来というところ、二十年間位ですが、どういう歩み方をし

ますかね。

加藤 資金？

大久保 いや、お金の話だけではなくスタイルの問題。こういうスタイルにしたとか、もう親交会をなくしてもいい医師会全体でやるという考え方もあるでしょうし、今まで通り積立金でやっていくとか。

齊藤（甲） 古い先生もいるし、新しく入ってくる若い先生もいますので、それぞれ抱えているイメージが違う。規約などでがんじがらめにしないで、先程言っていたアバウトに何となく、何かやっているという方式で推移するのが自然でないかと思っています。

確かに昔のいきさつはありましたが、今、お金があります。先人は偉いなあと、思いますね。

畠山 その当時は生活がかかっていたんだな。所得保障等の保険も完備されていなかったから。

齊藤（甲） その頃の目的と、今の親交会のあり方がずれて来てもいいと思うんです。そうして成長して行くんでしょうから。

加藤 そのうち月旅行どうですか、とい

うことになるかもしれない。積み増しても行きますか？

畠山 たとえば十万でも二十万でも会から出すというだろうけど、親交会からのお金を当てにして自分はタダで行こうという根性が気にいらない。俺は忘年会でもホテルを借り切るまでは行かなくても、その位ドーンとやった方がいいと思うてる。

皆川 忘年会といえば、夫婦連れが多くなっているんじゃない？

沢山 家族参加は結構ですね。でも、家族がいると言えない事もあるかな。

畠山 それなら、医者同士の親交会はビールパーティなんかを年に三、四回にするとか。海外旅行だったらメンズバーというのがあるからね。そこへ行っちゃべりたい事しゃべればいい。日本ならば男性禁止というのがあるけど。

大久保 そんな所に行ったら、かえって怪しまれるんじゃないの？

畠山 何を？ エイズとかかい？ 関係ないっしょ（笑）

加藤 ビールパーティみたいなのを回数増やすのはいいね。一回は出られる。

皆川 家族同伴とは別にしてさ。会費千

円位でやれば出来るね。

大久保 婦人科を代表して村井先生、どうなんですか。メンズバーでとか言ってますが。

村井 何だかわからない。（笑）

畠山 親交会は会員だけでしょ。メンズバー的なもんさ。男だけで、かあさん連れてくるなということでは話もOKという感じ。旅行に行った場合でも、かあさん連れて行くとさ、まずい所、いやらしい所も出たりするから駄目だよ。

でもね、札幌とか函館、そんな時でもどうぞ、という我々の意見なのさ。女性をよく見ているところの村井先生の意見はどうですか。そういうこと。

村井 アメリカでないからさ。日本では女の子がいたって卑猥であつてもいいわけ、今では女の子の方が立派だから。

児玉 奥さんの前でしゃべれる？ ゴルフ場でも男性オンリー、女性オフリミットなんか作っているのもそのためなんだよね。

畠山 そうそう、外国ではね。それを親交会の旅行にあてはめる必要はない。

大久保 美知子先生いかがです？ 親交会員は下品なんでしょうか？（笑）

斉藤(美) すごく品行方正。(笑)

加藤 旦那の会に女房はついて行くが女房の会には旦那がついて行く訳がないね。何が違うのかな?

畠山 照れ臭さもあるけど、立ち話で二十分も三十分もしゃべるのが女の特性だし、疲れるから普通は行かない。

大久保 うちのが言ってたけど、男のおしゃべりってすごいんだって。

畠山 男はしゃべりながら酒を飲んだり、ほかのことやるんだ。女はね黙ってびっちり喋るんだ。(笑)

児玉 美知子先生、反論したら。

斉藤(美) 男・女といっても色々ありますから。うちの亭主は私の会合にもついてきます。(笑)

加藤 勝手放題にどんどん言ってる下さい。やめてもいい、と思うものは?

畠山 前から言おうと思っていたんだけど、もうそろそろ「波久鳥」……原稿書いてくれというのも負担だし、こういうのは同好者だけでやって、親交会の中に入れる必要ないんじゃないか。字も何もすべて気にいらなないんだ。(笑)

塩沢 それが好きな先生がまた、いるんですよ。

畠山 だから、ゴルフ同好会みたいなもんでやって、雑誌代は飲み会や他の事に使った方がいいんじゃないか。

文字で顔を表しても、実際に相手に会わなければ癖もわからないし。

大久保 「波久鳥」は無駄だ、無駄なものはやめて、そんなノルマを課すな。こっちはやれ。これを「波久鳥」に書いて下さいよ。(笑)

畠山 それが負担なんだから、いや。

加藤 先生、あれは何号だったっけ、「くたばれ、パリス」あれも独特の畠山論だね。

畠山 あれは一号か二号。しょうがないから書いたんであって――。

大久保 もうそろそろ、どう?

畠山 今回も原稿用紙送って来たけど、勘弁してくれ。(笑)

辻 楽しみで読んでる人も居るんですよ。読んで感激するのは、最後に手紙があるでしょう。とても喜んでいる。

皆川 俺はまだ親父のものを読んでないんだ。シベリアに行ったいろんな事書いてあるんだけど、それはそれ、これはこれで、センスだから。

大久保 先生 それはセンスとは言わな

いの。読むのをセンスというの。和歌も載ってるよ。読みなさい。

## われわれのフォーラム

大久保 今日皆さんしゃべり足らなかつたように思えるんだけど、必ず明日の朝反省しますよ。

畠山 俺は酒飲んだら次の日は、余計なこと言ったかなあ、と。俺は後悔屋だから。

塩沢 先ほどの話を蒸し返すようですが、ど、忘年会に家族も参加するようになり、ホステスを呼んでどうなるのかなあって考えるんです。女房が妬くでしょうから。

畠山 ホステスはいた方がいい?

児玉 来ない方がいいということ?

塩沢 待てよ、どっちかなあ。(笑) ああ、家族は来ない方がいいということですか。(笑) 家族ごと同じテーブルにつくなら家に居ると一しよでしょう。

皆川 女房呼んだって全然関係ない。

児玉 そういう先生はいい。

大久保 辻先生、近未来、近は近々、未来は21世紀についてどうですか?

辻 営利に走らず、親睦を優先すべきか

と考えます。親睦の中には病診連携、勉強会もできますが、大切でないかなあと思います。

**皆川** 開業医と大病院の先生が混じり合っ  
て行かなければ、これからはだめです。  
親交会でそういう交流を設定してあげな  
きゃならないのなら、すべきです。

**三村** それが今まで少なかったと思うん  
です。

**皆川** それが、お金がどうか言うから  
可笑しくなるんです。

**斉藤(甲)** 医師会があり、親交会があり、  
非常にユニークで面白いと思うんです。  
医師会で堅苦しい事をやれば、親交会が  
調整的役割で、よいと思います。四十年  
前の大きなお金を負担してきた人達の意  
向もあると思うんですけど、それが未来  
に向かって我々の病診連携などに使われ  
る事であれば結構でしょう。取り崩しは  
もったいない。もっと大きくなるために  
も重要な基金ではないですか。

**畠山** 医師親交会の場合、二つあると思  
います。医者同士の付き合いと、それを  
広げていった家族ぐるみの交流。自分も  
家内・子供も同じように広げてゆく、そ  
の事に重点を置いて行きたい。

**塩沢** これからは年取った先生方は去っ  
てゆかれ、医療の質もさみしくなってい  
ます。そんな中で慰安会などを何年もや  
ってゆく事は非常に困難になるでしょう。  
利息でいかにうまくやってゆくかが問題  
だと思います。

**児玉** 今までも楽しくやってきたし、親  
交会は親睦だということです。

**沢山** 早くやめれば損、寿命まで長く続  
ければ一番得、そういうシステムだとい  
うことです。

**三村** たった五千円だけれども、そこに  
精神的な結びつきがあるんじゃないだろ  
うか。この会がなければ、この座談会も  
なかったろうし、「波久鳥」無用論も出  
ましたが、そういうことも話し合えな  
かったんです。また、これが会員の目に触  
れるんですね。

**斉藤(美)** 今日夫婦二人でご馳走に  
なり、医師会と親交会との違いについて  
聞くこともできました。ふだんお目にか  
かれない辻先生にもお会い出来、よかつ  
たなあと思いました。

**村井** えー今日の座談会のジャンルは  
「波久鳥」向きなのでかえって言いづら  
いです。成り立ちには必然性があつた。

だけど、今は親交会って何だ、という人  
もいる。これは付き合いの会という捉え  
方が多かったということ。アメリカには  
トンチン保険というのがあります。生き  
ていれば生きているだけ得、早く死ぬ人  
は生きている人の為になったという事で  
損をする。これは生命保険に適用されて  
いる事なんです。親交会に入っていない  
方への心配りが大切という意見も尊重す  
べきだと思います。

私は、親交会は医師のフォーラムだと思  
います。人が寄り合い、出会う広場・  
十字街です。未来についていろんな意見  
がでましたが、結局はファジーなところ  
で終わりました。家族が一緒にいる会にコ  
ンパニオンがいても、彼女らとさわやか  
につき合う理性があればよいという話で  
す。親交会の発展的解消、波久鳥無用と  
いう面白い見方もありました。これから  
はマンネリで進むのか、ファジー方式で  
やるのか、室蘭方式を続けるのか。

親交会のジャンルにふさわしい座談会  
だったと思います。(拍手)

# あんりくす

## ニューヨーク・ニューヨーク

上田 智 夫

(上田医院)

### 風まかせ

寅は大体アメリカにはあまり好感を持っていない。戦争世代の敗戦国意識が裏がえしでどこかにコビリついているのか、さすがの放浪男も、歴史がない、危険だなどと理由をつけて旅行していなかった。今回は寅の長男が家族共々ニューヨーク大学に留学し、その生活ぶりも見たいし、小学一年生と幼稚園年少組の孫達が、上手に異国になじんでいるかも心配でノコノコ出かける気になった。

旅行は娘がG I O (地球を歩こう)で手配し、娘が二十日、女房が二十三日発でロックフェラーセンターのクリスマスマスィブに間に合わせ、寅は貧乏くじで十二

月二十九日のそれも当日朝の千歳発で乗継。

ところが二十八日は朝からの荒模様、国際線は国内線を待つてはくれない。気象情報を聞いていると暴風雪で段々悪くなりそう。あわて、千歳に駆けつけ、やっと午後五時発をおさえたが出発は四時間おくれ、以降の便は欠航となった。羽田には十一時、急な事でホテルの予約もなく、羽田、浜松町、東京と転々と宿をさがすが案内所も既にクローズ。タクシ一の運転手に相談すると、羽田を早く出発する人が多いので、空港近くのビジネスホテル、場合によってはラブホテルでも利用するしかないと言われて、高速を再び羽田へ向かう。近くのラブホテルはすべてお断り、御盛業であるが聞けば男一人、男二人、三人連れは要注意なのだから、世の中には聞いてみなければわからない事があるなあ。

### ノースウエスト

何とかビジネスを見付けて泊まったが、

冬の空は風まかせ、いかにも寅の旅行らしくてまあいい、か。

成田出国の打合わせ場所GカウンターではG I Oのスポットが見付からず、時間になって搭乗アナウンスが始まっても不明。あせった寅さん他の旅行社に聞くと、やはり野におけ月見草、引込んだ場所にひっそりとあり、ノースウエストのニューヨーク便には、もう一人くらい乗るかもと心強い御返事。

### ニューヨーク

J・F・ケネディ空港は歓迎陣で満杯寅も世界的に有名になったかと思つたが大地真央、松平健の新婚旅行だとか、なあーんだ。ホテル・ミルフォードプラザは四十四丁目ブロードウェイのすぐ横、タイムズスクエアは歩いて一分。お目当のミュージカル「オペラ座の怪人」を見にいったが、さすがに本場の迫力だなあ。マジエスティック劇場は同じブロックのすぐ裏、便利は非常によかった。晚めしを食べようかとなって、女房と娘はお寿司を食べようと言う。俺は大体外国に出て二・三日もすればすぐ日本食が食べたくなったなどと言う輩は、日本に居る時はすぐおフランス料理の講釈をする様な



コ ダ マ 巻 き

連中だと思っており、外国でうまくもない日本料理に高い金を払うのはくそいま／＼しいのだが（おっと地金が出た、失礼）ついに行って見て驚いたよ。すっかり現地に定着して、日本人は我々の外一組、他は全部アメリカ人（だろうなあ）。こだま巻なるメニューは一人七ドル、味もなか／＼で中にマグロや七種類位の魚とトビツ子で手首くらいの太さ。女房殿曰く「カルフォルニア米は日本米よりおいしい」。やれ／＼日本でどんなお米を

食べているのやら。たゞし、お寿司の隣でステーキが煙をあげていたり、天ぷらをさかなのワインパーターが居たりで、古い人間には感覚的に一寸違う気がするなあ。

#### バツファロー・ナイアガラ

超駆け足旅行で、早朝のピックアップバス（各ホテルを回って客を集める）でニューアーク空港からバツファローへ。こゝで各国語別にツアーを再編成、ドイツ語、スペイン語、勿論英語もだが、日本語グループは九人マイクロバスでナイアガラへ。こけおどしと思っていたナイアガラ・フォールも聞くと見るとは大違いで人並に感激。カナダ側で一応入国スタンプも押して貰い、街を歩くと大橋巨泉のおみやげ店が、大きな張りボテ人形を飾ってでかい面をして立っている（も／＼態度もでかいが）。日本人を中心に満杯、円でもドルでもカナダドルでも結構、お釣も御希望に沿いますと商売うまいもんだ。確か見た事がある顔かと思つたら、鴨井清一先生、来る所は同じね。帰りは逆の順序で飛行機、バスと再編成。間違つて鴨井先生について行ったりすると、他所へ行ってしまう。

#### メトロポリタン美術館、五番街

翌日はメトロポリタン美術館、娘は別行動でワシントンへ。モネの「ルーアン大聖堂」、ゴッホの「糸杉」、ルノワールの「マダムシャルパンティエ」など、走って歩いた感じで、日本コレクションもゆっくり見学の余裕がない。

五番街を歩いて帰るが、ティファニー、トランプタワーあたりまでは見る気になるが、シャネル、グッチ、カルチェとつゞくと寅には苦手の（一般に男は苦手だが）ウインドウショッピングにぐったり。イエローキャブで帰ろうと言っても女房殿合点せず、めつたに來ないんだしホテルも遠くないから歩くと、の事、やれ／＼。二十九日に日本から直行便でニューヨーク、日帰りのナイヤガラツアー、ミュージカル観劇、メトロポリタン美術館に五番街ショッピング、さすがにタフネスを売りもの、寅もグロッキー、足が重い。有名なニューヨークのニューイヤーズに、可愛い、娘さんにキスの一つもして貰おうと思つて街に出るが、大規模な交通規制で、大量の警察官にバリケード、大巾に迂回をせねばならず、あきらめてホテルでダウン。

## ロングアイランド

長男の住居は郊外。マジソンスクエアガーデンの地下、ペンシルバニア・ステーション（気どってペン・ステーションと言う）からローカル鉄道で約一時間、サイアセットと言う所だが、日本人も黒人も少なく静かな郊外の町で、ニューヨークを逃れて奥え奥えと住宅地化が進んでいる。さすがに自然も残り住居の庭にはリスが日常的に出て来るし、物価も安く大人四人子供二人で食べ切れなかった



ロングアイランドで

ロブスター二匹で五十五ドル（三千五百円位か）、駅前中華でも人数分の料理を食べ切れずテイク・アウト。孫達の学校も、低学年は半分遊びの様で、すっかり馴染んでいるので一安心。近くの名前もおいしそうなオイスターベイは、海の幸一杯、セオドア・ルーズベルトのメモリアルがある。

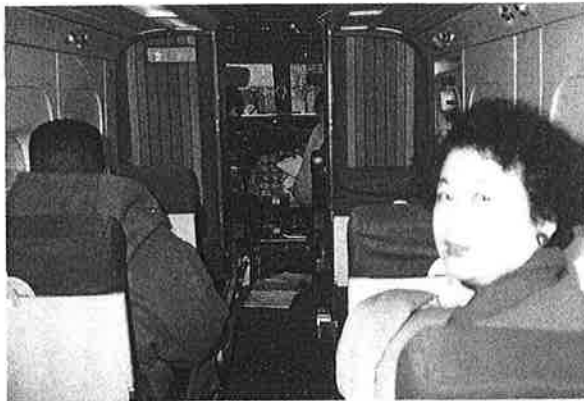
## ボストンへ

風雨の強い日に、ローカルのプレジジョン航空でニューアークからボストンに飛んだ。乗客八名、操縦席は目の前、風におおられて機体は傾くは上下はひどい手にジットリ汗をかく。不思議なもので小型でも何百人乗でも落ちる時は落ちるとわかっていても、何故か少人数では不安になるのは群集心理なのだろうか、ボストン空港では不安そうに娘が迎えに出ていた。

ウエステイン・ホテルは立派なホテルで、このクラムチャウダーはボストン一の味だとか、早速味わってみる。帰国後新聞で、中京大学の学長さんがこのホテルで殺害されたとの報道を見て、ボストンよお前もかとびっくりした。

また／＼かけ足でボストン美術館へ、

ゴーギャンの大作「我等いずこより来たり、いずこへ行くか」、モネ「モネ夫人」ルノアール「ブーヅバルの舞踏会」などをさっと見て、日本コレクションへ。快慶の「弥勒菩薩」や龐大な浮世絵版画も通りすぎるだけ。マチス・ピカソの特別展では、やはり極端なデフォルメに入る前のピカソの「母と子」にひかれる。



乗客 8 名

## ボストン二つのパーティー

娘が京都での国際会議の時、ボストン代表の案内をしたとかで、ボストンへ

ラルド紙の主筆ダナ・ビスビー氏が美術館まで車で迎えに来てくれ、セネター・ハロルド氏、コミッショナー・マリア・タレーイさんを交えて、ホテルでイギリス式にアフタヌーンティをいたゞく。お菓子の名前を忘れたが、ロンドン式の正式なものだとか。その後わざわざ港まで行き、世界最初のフリゲート艦（メモリアルとして保存してある）コンステイテューション号の見学につれていっていったゞく。

夜はデイナーに招待を受け、旅先ながら一応ドレスアップ。ビスビー家は日本文化に造詣が深く、歌麿、清長等の版画書、南画、また父親がGHQ勤務で在日した時のコレクションとかで、着物、刀、剣にいたるまで集めており、その他にもピカソのリトグラフなど見るべきものも多かった。

立席でのアペリティブとオードブルから始まって、席についてからは型どおり魚、奥様手作りの肉料理に入る時には、ゲストの寅がワインのテイストを。最後はこれも見事な手作りケーキ。や、緊張気味ではあったが、あまりボロも出さずホッと一息。パーティー後ホテルまで送っ



ビスビー家で

ていたゞいたが、部屋にはビスビー氏の名刺の入ったウエルカム・フルーツが届いていた。

### フリーダムトレイル

翌日朝を利用して市内へ、アメリカ独立の引き金となったボストン茶会船は、お休みで残念ながら外観だけ。リスの遊ぶ最古の公園ボストン・コモンからのフリーダムトレイルは、路上の赤い線に従って歩けば有名史蹟がほとんど見られるが、オールドサウス集会所、墓地、フラ

ンクリン像などを見て途中で失礼。ベイシテイエリアで、シーフード昼食、夕刻便で再びJ・F・K空港へ。

行きはよいよい、帰りはこわい

J・F・Kはロングアイランドにあり翌日の出発を考えてニューヨークに戻らず空港近くのホテルをとった。タクシーはどの空港も同じで危険が一杯、ラインアップの場所から出発したがメーターを倒さず、娘が目ざとく見付ける。

娘「メーターを倒していない、整理チケットを何故貰わなかったのか」。

運「休みのしかも夜だ。我々も生活か、っている。俺の車より安いのはない」。

娘「空港に戻ってほしい。配車係に会う」早口の米語でわからない、こんなことを言ったのだろうな？

運転手、車をとめて外人特有の派手な身振りで大声をあげてどなりだす。大柄な黒人の派手な騒ぎ方は結構迫力がある。寅はたゞオロオロ。ツアー雑誌などに

よく出て来る雲助タクシーに身ぐるみ刺がされたなどの記事が脳裏にうかび、「もうい、から、距離が近いのでボラれても知れている、途中まで来ているので直行して貰おう」。娘頑として受けつけ

ず「理由のない料金を払うべきでない。空港に戻って貰う」で、再びUターン。

空港では忽ち運転手が集まって来てガヤガヤ、結局納得し合ってホテルへ。その内二人はマイケル・ジャクソンの話となり、運転手はすっかり機嫌を直す。やれ／＼寅の娘だけあつて結構向うっ気が強いなあ（本当にトラのコだ）。

ホテルでは見得をはって、ニューヨークカーステキーに挑戦。苦心して平らげたが、さすがに食後のお菓子はノー・サンキュー。

成田に帰ったらそばをお茶漬だ。

## 隅田川の花火

大久保 洋 平

（大久保医院）

3月の末頃、北大医35期会の催の案内を頂いた。

今年は東京とその近辺の在住者が当番幹事を勤めて7月25日土曜日の夜に隅田川船上で花火を見ながら同期会を開くと



あつた。7月25日は僕の誕生日であるが、わざわざ各地から同級生が集って呉れるし、東京の空に彼の有名な花火を打ち上げて呉れるとは千載一遇のことなので即座に出席することを決断した。昨年の誕生日は腰の手術を受けた直後で病室で過ごしていたので、今年は何と幸運なことかと素直に喜んだ。早速、当番医の日程を工面してもらい、そのあと航空券の予約を済ませて先ずは準備完了と、その日の来るのを待つことにした。

6月に入ってから参加料、ホテル代を全て納めて、7月25日の朝、いよいよ妻

と共に出発。

盛夏の東京はほぼ30年振りだから熱さは覚悟していたものの、着いた途端に汗が吹き出してきた。夏休みに入ったためだろうが、学生や子供達が空港にも駅にも電車の中にも溢れかえっているようだ。

案内にあった通りに地下鉄赤坂見附駅で下車して赤坂プリンスホテルに向うつもりで地上に出たら、周囲にそれらしい高層ビルが林立していて、さてどれやらと、お上りさん思案の始まりである。駅前の案内板を見たけれど、この暑さの中を遠廻りするのも阿呆らしいと駅前交番で尋ねたところ直ぐ右前方に聳える最大のビルがそれだと教えて呉れた。交叉点の信号を待っていると筋向かいの左角にサントリー美術館が建っている。時間があるので旅装を解いたら後で来てみようかなどと話しながらホテルに向った。

23階のツインルームに案内されたがスリーッと冷気を感じて一息ついた。大変広い部屋で眺望もよく（ただ一面コンクリートの建物が見えただけ）部屋に関しては満足。缶ビールを取り出して一気に流し込む。汗でグシャグシャになった下着やYシャツを取り替えてベッド

に大の字になる。屋外と違つて将に天国である。30年前に泊まった宿では濡れタオルで汗を拭いて団扇であおいでいたのに・・・。隣りのベッドにひっくり返っている妻にサントリー美術館を見に行くかと聞いたら半分寝言のように「やめた」と云う。

3時半ロビー集合に合わせて降りて行くとみんなが集っていた。卒業以来の懐かしい面々も居る。服に青いリボンをつけて、手渡された花火の絵柄の小さい団扇を手にして、既に玄関に待機していたライオンマークの西武のバスに乗り込む。

隣りのバスには用意周到にも各人異つた浴衣姿のホテル客の一行が乗り込んだ。芝公園に近い日の出桟橋に向うが、交通渋滞を考慮しての一時前出の発。ところがバスはスイスイと都心を抜けて30分足らずで桟橋に着いてしまった。4時半乗船とのことなのでクーラーの効いた車内で待機する。待ち時間を利用して同期会の開催となるが、幹事から二・三の報告があつただけで、前の席から順に各自の近況報告をする事になった。特に多いのが病気をしたのと、孫が出来て爺さん婆さんに昇格したのと、医者跡取

りが出来たのが多かったが、株の暴落のために此頃、再び生業に本腰を入れざるを得なくなつたという近況まで飛び出して笑いと同情のうちに、全員の報告に至らない間に乗船時間となり船に向う。

小さい船着場なので、こども人で一杯。女性添乗員の掲げる赤坂プリンスホテルの小旗に従つてゾロゾロとついて行く。

「シンフォニー」と船名をつけた真白い大きな船が真つ先に目に入ったが、これは海を巡るクルーザーで花火見物のは背丈の低い平たく中広い窓ばかりの水上バス。「マイタウン」、「ユアタウン」、「ワータウン」(確かそんな名前だったと思うけれど?)と云う同じ大きさの100トンの3隻の船に見物客達が次々と乗船する。入ってみるとデッキが3階になっていて、我々のグループの席は最下階に用意されていた。横の窓はほぼ水位と同じで、近くを船が通ると窓に波が打ちつけて来る。

8人掛けのテーブルにはおつまみが用意されていて着席したら直ぐに飲み物の注文をとりに来たのでビールをオーダーした。同席の何人かが赤い飲み物を口にしている。ロゼワインかと思つていたら

「乾杯ソーダ」とか云つてお代わりを注文するので、今、何んと云つたと聞いてみたら矢張り「乾杯ソーダ」と聞こえる。船内は既にバンドの演奏が始まっているし、専属の司会者はマイクの大声でわめいているので隣りの話すら良く聞き取れない。再度「カンパイ」と云つたのかと正したら「カンパリソーダ」というイタリヤ酒のソーダ割りだと云う。室蘭にもあるのかどうか知らないが、僕には初めての代物なので一口飲ませて貰つたが、お代りをする気にはなれなかった。札幌勢はやはりキザだなあと思つた。

船は殆んど揺れもなく隅田川を昇る。船内は一層、騒音に包まれる。乗客全員でビンゴゲームが行われ、3回か、4回ゲームが行われたのに僕は一度も入賞せず、妻は何等かで恐竜展の入場券を当てた。

水上バスは勝鬃橋、永代橋とくぐり抜けて最後に両国橋を少し上つた所でエンジン停止、アンカーを入れて180度回転させて船首を川下にむけて固定された。周囲には赤提灯で飾りつけた屋形船や、クルーザー、モーターボート、果ては磯舟

程度の小舟にまで溢れそうな花火見物客を満載して右往左往している。その間をひっきりなしに警視庁、消防庁のモーターボートがスピーカーのボリュウムを一杯にして交通整理に当たっている。両河岸は勿論、橋の上もいっぱいの人だかりである。花火の打ち上げ開始は7時20分のことだから、未だ優に2時間もあると云うのに。夏の5時半はまだまだ昼間である。場所獲りも人まかせで飲み乍ら晩飯を食い乍ら時間を潰してられる我々の船は超特等席である。

はしゃいでいるうちに辺りもようやく薄暗くなり司会者からそろそろ花火打ち上げ間近との紹介があり、デッキでの注意など受けてから最上階のデッキに出た。腰掛けられる場所はもう無くなっている。団扇を煽ぎ乍ら立ったまま花火を待つ。激しく団扇を煽いでも温風が顔に当たるだけだが川面だから両岸で待っている人達よりはかなり涼しいだろうと慰める。

やがて川上の方から烈しい轟音と共に花火が打ち上げられた。半分曇ったような空なのに鮮明な色彩かな花火である。全てが垂直に上って同心円を描き、垂直に火の粉が落下して来る。と同時に次々

と炸裂するので火花の昇降に切れ間がない。花火師達の腕前と心意気たるや流石と感心する。

上手に少し遅れて川下からも打ち上げが始った。船からは勿論のこと、河岸から、橋の上から、両岸のビルの屋上からも、窓からも歓声が上がる。

打ち上げ前には数機のヘリコプターが旋回していたが、いつの間にか数が増えて10機程のヘリコプターが航行灯を点滅させながら花火の上空を何度も右旋回を繰り返している。夜空に黒っぽく飛行船も浮んでいた。ヘリコプターは報道用と置いていたら観光用が殆んどと教えられた。我々よりも上をいつている奴がいるものだ。

隅田川の川開き、花火大会は毎年7月の最終土曜日の夜と決まっているのだそうである。こんなに有名で大勢の観客が押しかけるのにたった一晚だけとは惜しいような気がした。そしてここで打ち上げる花火は防災上の理由から四寸玉以下のことで、スターメインや水中花火も行われぬそうである。でも都会の狭い夜空の空間に充分な花が開くし、音も周囲の建物に反響するのか耳を押さえる程

の音がする。

室蘭では滅多に花火見物をしないのに大枚をはたいてわざわざ出掛けて来たのだから存分に見てやりましょうと熱心に見ていると仲々面白い。はじめ一色だけの幾筋かの火花が走って直ぐ濃いピンクの火花が重なって大きく振り包むのは、花咲爺さんが一気に八重桜を満開させたのだろう。金色と銀色の輪が少し重なり乍ら同時に左右に大輪を開かせたのは、まさしく「さんさん、さんさん」。この日は丁度バルセロナオリンピックの開会日でもあり、夜空に五つの輪。但し黒はない。魚が出たり、イカやタコが出たりで楽しいが首筋も腰も痛くなって来た。(帰路での説明によれば、この大会は全国各地から運ばれて来る新作の発表会なのだそうである)

二万発の打ち上げとあるが時計をみると終了時間まで未だ40分程残っているが、お先に失礼と元の客席に戻って来た。僕と同じ「花より団子」の先客組がいて、すっかり出来上がっていた。注文しないうちから直ぐに水割りが届く。流石はプリンスホテルの貸切りだけあってよくもまあ気がきくものだともまたまた感心した。

釧路のN君は「釧路の花火大会は屢々音と微かに空が明るくなる程度のこともあるよ」と皆んなを笑わせていたが、室蘭と同様と喉まで声が出なかったが、若しこの文章が室蘭の関係者の目に止ったら、あとが怖いから「室蘭の方がまだましだ」としておいた。

8時半丁度に花火が終って再び全員が客席に戻って来た。アルバイトと思われる黄色いシャツのボーイや白のブラウスのウエイトレスがせっせとフルーツやアイスクリーム、コーヒー、お茶を運んで来る。ステージでは講師(好男子)と自称する司会者が江戸小咄や得意の講談を演じている。花火に代って今度は色とりどりの広告灯が主役の夜景を眺めながら隅田川を下る。

船の速度が弱まり、一瞬グラリと揺れて出発点の日の出桟橋に接岸した。

3隻の水上市バスが全部到着したところで添乗員の掲げる小旗に従ってバスに向う。どうも3隻共、プリンスホテルがチャーターした船らしく下船した全員が待機していた西武のバスに乗り込んで夫々ホテルに帰っていった。

隅田川の花火。

「冥土の土産」にはちと早いと思っ  
ているが「話のタネ」にはなるだろう。そ  
んなつもりで「波久島」のページ稼ぎに  
駄文を作ってみたけれど、何しろ凄かつ  
たのは花火よりも、群がっていた大東京  
の人の塊りだったのが実感であった。

## 日本第二の深湖支笏湖畔、

### 幽邃静寂な丸駒温泉を訪ねて

鴨井清一

(鴨井外科整形外科病院)

平成4年6月14日(日曜日)午前8時  
30分、室蘭市医師会モータリストクラブ  
ドライブ会の、吾々一行は、鷺別中学校  
庭前に集合、11台の自動車、会員家族職  
員を含めて37名は、春霞道央高速道を走  
り、千歳市街を通り恵庭市のサッポロビ  
ール北海道工場に到着した。

この工場は、3年前に完成した会社自  
慢の最新設備を備え、先端技術とすぐれ  
た生産能力は内外で高評され、又所謂  
「恵みの庭」を有し美術館風工場と親し  
まれているとのことであった。当日は日  
曜の事で工場稼働休業中であったが、製

造工場を窓越しに見ながら約100米以上館  
内を通り、ゲストハウス即ち恵みの庭園  
が見渡せる来賓展望室へと案内され、遠  
くまで眺望のきく景色の良い所で、ここ  
で出来立ての新鮮なビールを試飲ご馳走  
になり、売店でビール関係土産物を購入  
後、工場を後に支笏湖へと向う。

湖畔に近づくに従い霧雨と変り、樽前、  
風不死岳の山容は、雲に包まれ見えない。  
湖面は穏やかで、鈍い霞の中に見える。

ホロビナイ付近には、多数のキャンパー  
の姿が見られ、屈曲する山道を経て、正  
午頃丸駒温泉に到着する。

旅館は観光客であふれ、賑っていた。  
湖面に面し大変眺めの良い会場に案内さ  
れ、チップ姿焼料理を中心に晝の宴を取  
る。大変美味結構な味で、全員満足そう  
に懇談に花を咲かせていた。

露天風呂は、硫化鉄鉱泉様で、浴室は  
狭く客で一杯であった。然しながら、恵  
庭岳の麓、原始林に囲まれ、6月の青葉  
若葉の下で、湯に浸たり心豊かに醍醐味  
の気分を味わう。

思い起こせば、今を去る24年前当会ド  
ライプにて立寄って以来2度目の訪問で  
ある。

当時は、もの静かな木造旅館であったが、然し幽邃閑雅な湖面に、対面して青空に聳える樽前山、風不死岳の勇姿は格別の趣があつて忘れられなかった。その時今は亡き、元市立室蘭病院院長阿部新一夫妻も一緒され、大変気に入られて、もう一度来て見たいと云つていたのが、未だに印象に残つて居る。

其の昔と場所は同じでも、今は3階の近代建築旅館となり、ずっと広く美しく完備され、観光客も多く有名になつて居る。

湖岸は急で断崖が多く、北海道第一、日本第二の深い湖で、湖底は海拔115米であつて、円形の大カルデラ湖を成し、樽前、風不死、恵庭の三大火山の噴出に依り形成されたと云われている。尚、水温は年中3度6分を保ち冬でも凍ることなく、洞爺湖と共に吾邦最北の不凍湖となつて居る。

尚、春から初夏にかけて釣れるチップ(姫鱒)は美味で第一番の土産物となつて居る。

午後2時30分頃宴会も終わり、随時解散し、各自それぞれ帰途に着き夕刻帰蘭した。

## 第二六回北海道ドクターズゴルフ大会 青年B優勝記

西里 弘 二

(西里内科循環器科医院)

波久鳥編集委員より以前から寄稿依頼を何回か受けていましたが、生来、作文が苦手で固辞していました。今回、図らずも第二六回北海道ドクターズゴルフ大会青年Bで優勝してしまい、大久保先生より優勝記を書くように命令され、断る訳にはいかないので私のゴルフ歴とゴルフ大会当日のプレー状況を記載して私の責にしようと思います。

私のゴルフ歴は約二十一年、義父と義兄に勧められて始まりました。開始時は二〇代の半ばで、中学・高校と野球、大学時代もバスケットボールとスポーツばかりしていた私には、ゴルフは活動的なスポーツとは考えられず、余り気乗りしませんでした。しかし一般ゴルファーが嵌る落とし穴に陥つてしまいました。練習所で初めてゴルフボールを打ったときの惨憺たる有様は今まで培ってきたスポーツ

(特に球技) に対する自信が脆くも崩れさりました。こんな小さなゴルフボールに手をやき、手玉に取られた悔しさからゴルフにのめり込んでいきました。ゴルフ雑誌(月刊誌)なども月に二冊程買い、プロのスイングの連続写真や解説などを見ながらなんとか良いスイングを身に着けようと練習もしましたが、あまり効果がなかったようでドライバーなどは殆んどフェアウエーに飛ばず、ラフや林の中またはO・B連続ということが多かったです。その為かこの時代が一番トラブルショットが上手だったと思います。トラブルショットといえは一度、かなり高く生い茂ったラフに入り、思い切り打ったところボールと一緒に何か飛んでいったので、タフかなあと思つてクラブを見るとアイアンが根元から折れており、飛んだのがアイアンヘッドだったのにはびっくりしました。

ゴルフを始めた一、二年は雨がどんなに降ろうが、ゴルフ場が閉鎖しないがぎりゴルフ大会に出かけていきました。その甲斐があつてかその当時の優勝カップや盾が結構残っていました。しかしこのような生活も大学の医局に戻ってからは

できなくなり、一時的にゴルフ熱も冷めてしまいました。昭和五十年頃に医局の同窓会翌日に教授名の冠大会（吉永杯）が同窓会で開催されるようになってから、年に二、三回医局員と医局O・B合同の親睦ゴルフ大会が開催されるようになり、また時々ゴルフをやるようになりました。その御蔭で東北クラシック大会（プロ競技）が開催された西仙台カントリーゴルフ場、表蔵王ゴルフ場などでプレーできたことが思い出として残っています。昭和五四年六月に函館市立病院に赴任して院内ゴルフ大会で直ぐに優勝し、ゴルフの幹事になってからゴルフの回数も少し多くなりました。丁度、年齢的にもゴルフの実力的にも同じくらいの先生方が何人かおり、お互いに競い合い私のゴルフ歴では一番充実していた時かも知れません。この時代はハンディ十三〜十一でプレーをしていましたが、ワンラウンド平均して良いということがあまりなく、ハーフ三十代〜四十代前半を出しても、残りのハーフが五十代とか四十代後半とかでした。従って実力的にはハンディ十五・十六程度でしたが、時々三十代や四十代前半のスコアを出すので実力以上のハ

ンディでプレーをしていました。この時代は飛ばすことに命をかけていたようなところもあり、無謀にもミドルホールワシオンを試み、何回か成功したものもの失敗の方が多く（O・Bをだしたり、池へ入れたり）、支払った代価の方が高かったような気がします。四年前に函館市立病院一族会コンペに参加したとき、一緒にプレーした後輩に二〇〜三〇ヤードドライバーで離され、過去いろんな飛し屋と言われる人とプレーしてもこれ程離されたことはなく、ショックとともに飛ばす興味も薄れ、以後オーバードライブされても気にならなくなりました。昭和五八年に帰蘭し、開業してからはプレーの回数も減りましたが、偶に参加するゴルフコンペで信じられないような五十代後半のスコアが出たりするようになり、途端にゴルフをすることが負担となり興味も薄れてしまいました。子供が釣りに興味を示したこともあり、一時川釣りの方に転向しましたが、子供も大きくなり一緒に行動できなくなり、またゴルフを少しやるようになり昨年頃からスコアも少しまとまるようになりました。

全く自己流で、開始一、二年はまあま

あ練習もしましたが、その後は殆んど練習もせず、月一〜二回のプレーしかしないアベレージゴルフファーが約二一年間の大部分の年数をプロのようなバーオン狙いの攻撃的なゴルフをし、心に余裕のないプレーをしてきましたが、最近になりようやく守勢的なプレーでゴルフを楽しめるようになりました。今後はどれ程実力が上がるか解りませんが、楽しみながらプレーをしていこうと思っています。

今回の北海道ドクターズゴルフ大会は三、四日前に風邪をひき、前夜祭に出席して結局二次会までつき合ってしまった、さらに体調を崩し最悪のコンディションで臨むことになりました。従って優勝とか目標スコアとか念頭になく、ホストとしての役目をして早く帰宅することのみでした。このような状態でしたので、不参加の先生がいたためにスタート時間が繰り上がって早くスタートできたことは幸いでした。

スタートの時には薬が効いてきたのか発汗が強くなり、取敢えずジュースを飲み、さらに飲料水を二本持参してアウトコースをスタートしました。一番ホールはなんとなく身体に力が入らず、ドライ

バーも第二打もミスショットでしたが、ボギースタートでした。二番ホールは第一打ナイスショットで残り二一〇ヤードフェアウェー右でした。第二打バァフィーで軽く打ったところグリーンへ向って真直に飛び直接オンしてグリーンオーバーしたように見えたが、行つてビックリ、ピン横三mに二オン、イーグルパット打ち切れずにバーディ。三番ホールはバーディの後は慎重にと思つて打った第一打はミスショットであり飛ばず左のラフへ、第二打残り百ヤードのフェアウェーへと思つて打ったところ左にひっかけて左の林の左寄り(二番ホールのラフ)へ。歩きながら運を天に任せて林越えか林の中へ打つしかないなあ(いつもはここで前のホールで逃がしたイーグルパットを悔むのが、今回は事後処理に頭が一杯)と思つて行つたところ幸にも真横に一m程の空間があり、第三打で林から脱出。第四打でピン一・二mにつけて一パットのボギー。これはバーディ以上の価値あり。四番ホールは右にプッシュし、アプローチも約六mと寄らず。同伴者全てバーで私一人ボギーの危機、思いきつて真直ぐに打ったところ真中から入りパ

ー。この辺からいつもと違い崩れそうで崩れないなあと思ひながら五番ホールの第一打へ。真中の木の左側を狙うも左の二本の大きな木の方へ飛んで落下地点不明。トラブルショットを覚悟して第一打地点に行くとフォアキャディがいて「木の枝に当たつて真下に落下したから良かったものの、木に当たらなければ奥のO・Bまで行つていましたよ」とのこと。付いているぞ!!。三オン二パットのバー。六番ホールはバーディ逃がしのバー。七番ホール、第一打右に押し出し残り九〇ヤードの右の林へ。第二打クラブは振れるが目の前の林を越えなければ、エーイとばかりに第二打、木の葉に当たつた音がしたけれどもグリーンエッジへ。そこから寄せてバー。八番ホールは第二打残り一五〇ヤード。ピンに向かつて真直に飛んで二オンかと思つたところ落ち際からフックしてあれやあれやと思つている間にバンカーへ。バンカーからピン一・三mに寄せてバー。九番ホール、第一打少し右に出て一五〇ヤード標識木の少し前方ラフへ。第二打右に大きく押し出してグリーン右横に外す。アプローチも寄らず二パットのボギー。アウトコースト

タル三八。同伴者も函館の遠藤先生を除いてパープレーからアンダープレー。約一〇年ぶりの三十代のスコアだが体調のせいか感情の高揚もなく、全く実感が湧かないまま後半のインコースへと向う(通常だと三八のスコアを出すと後半は慎重になり過ぎてミスを繰返すこと多し)。

インコース十番ホール、一抹の不安を抱きながらの第一打はナイスショットで気分良くスタートする。二オンを狙った第二打は少しダフツて左へ行くも残り二〇ヤード。第三打で寄せてと思つた第三打はショートしてグリーンに乗らず。第四打は逆に強くてピンオーバー。四オン二パットのボギー。いつものアプローチとパットで崩れるパターンが始まつたかと嫌な気分になつたが、十一番ホールが二オン二パットのバーで忘れる。十二番ホールは右に押し出して林の中、そこから出したが、少し大きく反対側の林の前列の木の所で、バックスイングでクラブが木の枝に当たるも強引にスイングしたところグリーン右横の下へ。第四打アプローチが大きくて左のガードバンカーへ。そこから寄せてボギー。トラブルショッ

トの連続で大叩きしたような気になったが、実際はボギーだったので安堵。十三番ホールは一オン二パットのバー。十四番ホール、第一打打った瞬間は少しドロ一系のナイスショットと思っていたら途中より曲りが大きくなり左の林の方へ飛んでいったが落下地点不明。トラブルショットを覚悟しながら林の中を歩いて行くもゴルフボールは見付からず。林を抜けて坂を登り切ると左側ラフ残り一四〇ヤードの地点にあり。前方に木立があるも越せない程ではなく、バーを取る。十五番ホールは左へ飛び出したが、フックしなかったため林まで行かず残り一〇〇ヤードを二オン二パットのバー。十六番ホールは左に大きく引つけてグリーン左横下からのアプローチ。約二mにつけて一パットのバー。十七番ホールは第一打ドロ一系のナイスショットで残り一〇〇ヤード弱。このグリーンは手前から早いから手前から攻めなければなどこの辺からショットの結果を気にするようになり、思いきったスイングが出来なくなり、結局二オンでできず。しかしアプローチで一m強に付けたのでバーは取れるかなあと思ったら外してボギーとする。十八番

ホール、最終ホールともなるとどうしてもスコアの計算をしてしまい、このホールをボギー以内に収めると初の七八が出るかと思うと、流石に緊張し、慎重になり過ぎて、第一打も思い切り振り抜くことができなく、完全に手打ちになりミスショットをしてしまいました。幸にもフェアウエーにゴルフボールがあり、二オンも狙える距離でしたが、第二打はグリーン左横に大きく外し、アプローチも寄らず、また本日唯一の三パットをしてダブルボギーとしてしまいました。結局、インコースは四一で、トータル七九と辛うじて八十を切りました。

この日、風邪で微熱があり万全な体調でないにも拘らず、良いスコアが出たのは、一・絶好のゴルフ日和。二・アプローチ、パットのミスがほとんどなかった。三、プレーの進行がスムーズで自分のリズムでプレーできたことなどが考えられた。

プレー終了後は早々にアテストをして帰宅しようと思いアテスト場に向う。アテストしながらネット六四のエイトアンダーという数字に吃驚していると、幹事の先生から優勝かも知れないので、結果

が解るまで待つように言われる。ホスト側の者として優勝などしようなど考えてもいなかったもので、嬉しいというより当惑の感じが強かった。今日は絶好の条件でプレーをしているのだからエイトアンダー以上の成績で上がってくる人もいるかもと思いながら待つ時間はとても長く感じられ、風邪と睡眠不足から段々と体もかたくなる、気分も重くなってきた。スコアボードを頻繁に見に行くが、青年B組はなかなか上がって来ず、壮年組を見ると中野先生がシックスアンダーで先生の顔を見ると晴れ晴れというよりも当惑しているような感じで、同じ思いでいるのかなあと少し安堵しました。

全員の競技が終了し、結局私が青年B組で優勝しましたが、これ程複雑な思いで優勝杯を受け取ったのは初めてでありました。奇しくも準優勝は室蘭栄高校で同期の高橋一昭先生であり、このような大きな大会でしかも室蘭の地で同期の者が優勝、準優勝することは大変稀有な出来事であり、私のゴルフ歴の一頁に残る記念すべき大会となりました。

最後に第二六回北海道クタクターズゴルフ大会が室蘭市医師会、同ゴルフ同好会

の関係者等の努力により、絶好のコンディションの下で成功裡に終えたことを御祝いして私の優勝記と致します。

追記、栄えある優勝に浴することができた記念すべき大会の同伴者名を感謝を込めて銘記したいと思います。

壮年B組優勝の菊池郁雄（旭川）、壮年B組第二位の阿部昭治（室蘭）、壮年A組で大学の大先輩の遠藤守一（函館）の三名の先生方でした。

## 第26回 北海道ドクターズゴルフ大会 成績表

平成4年6月28日 快晴 幹事：室蘭医師会 於：室蘭ゴルフ倶楽部白鳥コース

壮年A

| 順位  | 氏名    | 医師会名 | OUT | IN | GROSS | HDCP | NET |
|-----|-------|------|-----|----|-------|------|-----|
| 優勝  | 中野 俊彦 | 胆振西部 | 44  | 42 | 86    | 20   | 66  |
| 準優勝 | 竹内 四郎 | 岩見沢市 | 43  | 41 | 84    | 14   | 70  |
| 1位  | 水野 哲義 | 羊 蹄  | 46  | 41 | 87    | 13   | 74  |
| 2位  | 川村 幸雄 | 滝川市  | 44  | 41 | 85    | 10   | 75  |
| 3位  | 加藤 道夫 | 札幌市  | 47  | 44 | 91    | 16   | 75  |
| 4位  | 上埜 忠一 | 渡 島  | 46  | 42 | 88    | 12   | 76  |
| 5位  | 大間 道夫 | 岩見沢市 | 45  | 49 | 94    | 18   | 76  |
| 6位  | 中村 大樹 | 千 歳  | 48  | 48 | 96    | 20   | 76  |
| 7位  | 河合 秀樹 | 羊 蹄  | 42  | 44 | 86    | 9    | 77  |
| 8位  | 佐伯 宮彦 | 江別市  | 41  | 49 | 90    | 13   | 77  |
| 9位  | 小田切 醇 | 室蘭市  | 48  | 47 | 95    | 18   | 77  |
| 10位 | 北川 克己 | 札幌市  | 42  | 46 | 88    | 10   | 78  |
| B B | 相馬 公夫 | 札幌市  | 49  | 56 | 105   | 19   | 86  |
| B G | 竹内 四郎 | 岩見沢市 | 43  | 41 | 84    | 14   | 70  |

壮年B

| 順位  | 氏名    | 医師会名 | OUT | IN | GROSS | HDCP | NET |
|-----|-------|------|-----|----|-------|------|-----|
| 優勝  | 菊池 郁雄 | 旭川市  | 44  | 45 | 89    | 23   | 66  |
| 準優勝 | 山田 克己 | 札幌市  | 46  | 46 | 92    | 23   | 69  |
| 1位  | 武隈 茂弘 | 釧路市  | 51  | 48 | 99    | 28   | 71  |
| 2位  | 阿部 昭治 | 室蘭市  | 50  | 50 | 100   | 28   | 72  |
| 3位  | 大鹿 栄達 | 胆振西部 | 50  | 51 | 101   | 27   | 74  |
| 4位  | 出口 栄二 | 岩見沢市 | 49  | 47 | 96    | 21   | 75  |
| 5位  | 加藤 嗣郎 | 胆振西部 | 46  | 52 | 98    | 23   | 75  |
| 6位  | 東 堅治  | 札幌市  | 48  | 50 | 98    | 22   | 76  |
| 7位  | 石塚 昇  | 岩見沢市 | 46  | 52 | 98    | 22   | 76  |
| 8位  | 林 宏紀  | 旭川市  | 45  | 54 | 99    | 23   | 76  |
| 9位  | 矢ヶ崎和雄 | 旭川市  | 51  | 50 | 101   | 25   | 76  |
| 10位 | 遠田 久俊 | 余 市  | 51  | 51 | 102   | 26   | 76  |
| B B | 川上 敏晃 | 室蘭市  | 62  | 66 | 128   | 40   | 88  |
| B G | 菊池 郁雄 | 旭川市  | 44  | 45 | 89    | 23   | 66  |

青年A

| 順位  | 氏名    | 医師会名 | OUT | IN | GROSS | HDCP | NET |
|-----|-------|------|-----|----|-------|------|-----|
| 優勝  | 川村 五郎 | 富良野  | 39  | 40 | 79    | 7    | 72  |
| 準優勝 | 荻野 秀二 | 胆振西部 | 43  | 42 | 85    | 12   | 73  |
| 1位  | 足永 武  | 室蘭市  | 39  | 40 | 79    | 5    | 74  |
| 2位  | 石山 勇司 | 札幌市  | 39  | 40 | 79    | 5    | 74  |
| 3位  | 上埜 光紀 | 札幌市  | 41  | 41 | 82    | 8    | 74  |
| 4位  | 日野 睦雄 | 胆振西部 | 42  | 45 | 87    | 13   | 74  |
| 5位  | 高畑 勝彦 | 旭川市  | 44  | 38 | 82    | 7    | 75  |
| 6位  | 皆川 和廣 | 室蘭市  | 40  | 44 | 84    | 9    | 75  |
| 7位  | 皆川 芳徳 | 室蘭市  | 41  | 43 | 84    | 9    | 75  |
| 8位  | 岡田 健二 | 根室市  | 44  | 43 | 87    | 12   | 75  |
| 9位  | 遠藤 秀雄 | 室蘭市  | 40  | 47 | 87    | 12   | 75  |
| 10位 | 西田 陸夫 | 室蘭市  | 49  | 40 | 89    | 12   | 77  |
| B B | 加藤 輝夫 | 渡 島  | 48  | 52 | 100   | 10   | 90  |
| B G | 川村 五郎 | 富良野  | 39  | 40 | 79    | 7    | 72  |
|     | 足永 武  | 室蘭市  | 39  | 40 | 79    | 5    | 74  |
|     | 石山 勇司 | 札幌市  | 39  | 40 | 79    | 5    | 74  |

青年B

| 順位  | 氏名    | 医師会名 | OUT | IN | GROSS | HDCP | NET |
|-----|-------|------|-----|----|-------|------|-----|
| 優勝  | 西里 弘二 | 室蘭市  | 38  | 41 | 79    | 15   | 64  |
| 準優勝 | 高橋 一昭 | 日 高  | 50  | 42 | 92    | 23   | 69  |
| 1位  | 吉田 憲基 | 苫小牧市 | 46  | 46 | 92    | 23   | 69  |
| 2位  | 斎藤 孝次 | 釧路市  | 44  | 42 | 86    | 16   | 70  |
| 3位  | 松村 満隆 | 岩見沢市 | 44  | 43 | 87    | 17   | 70  |
| 4位  | 佐藤 貢貢 | 千 歳  | 43  | 45 | 88    | 18   | 70  |
| 5位  | 守谷 保夫 | 胆振西部 | 41  | 48 | 89    | 19   | 70  |
| 6位  | 安藤 修一 | 室蘭市  | 44  | 45 | 89    | 17   | 72  |
| 7位  | 高田 竹人 | 函館市  | 45  | 46 | 91    | 19   | 72  |
| 8位  | 西村 進  | 釧路市  | 51  | 47 | 98    | 26   | 72  |
| 9位  | 三上 淳一 | 室蘭市  | 50  | 49 | 99    | 27   | 72  |
| 10位 | 鈴木 忠男 | 滝川市  | 48  | 43 | 91    | 18   | 73  |
| B B | 男澤 伸一 | 滝川市  | 62  | 59 | 121   | 29   | 92  |
| B G | 西里 弘二 | 室蘭市  | 38  | 41 | 79    | 15   | 64  |

## 編集室へのお便り

編集委員の皆様ご苦勞様でした。十二号拝見拝読しましたが、誠に立派な出来ばえで、内容も充実し、何処に出しても自慢出来るものと思います。外部からの感謝の通信も多く、先頃送り先の検討の話も出ましたが、一度に中止する事なく相手の事情を斟酌しながら継続した方が良いと考えます。

大岩 昌生

(三・二一・一〇)

本格的な寒気の到来する時候となりました。御一同様には御清祥の程御慶び申し上げます。本日は貴重な「波久鳥」十二号をお届け頂きまして誠に有難うございました。

丁度亡き主人の月命日の日で早速佛前に報告いたしましたして拝読いたしました。向寒の折御勝健にて益々の御発展を心から御祈り申し上げます。

右御礼まで申しあげます。

かしこ

室蘭市東町二一十二

有賀 多賀

(三・二一・四)

今年も残り半月余り、諸先生には御健勝で、何んとなく心慌たらしい年末を過ぎして居られる頃と察して居ります。

此度も亦「波久鳥・第十二号」を御恵送下さって、誠に有難く厚く御礼を申し上げます。畑仕事も一段落致しましたので、これから楽しみに、読ませていただきますが、波久鳥を送っていたゞく度に「これで一年が終わったんだ!!」としみじみ痛感する此頃です。

私も変わりなく、平々凡々の日々を過ぎして居ります。十月の当地方は、毎日小雨降りの小寒い悪天候続きで晴れた日は僅か四、五日だけ、こんな異常天候は初めての経験で、秋野菜類は大作!!骨折り損となり、がっかりして居ります。

去る七月初、三年振りに渡道して、洞爺湖東湖畔の墓地に詣で、から、小樽、札幌を廻って要件をすましてから室蘭に寄って、三泊し、病院を訪ねて川上院長

と初対面して挨拶し、新築完成した新外来棟を案内していたゞき見学致しました。本年は室蘭製鉄所病院の開院五十周年の記念の年に当たりますので、その「記念の集い」を十日午後五時から中島町の「しらかば」に於て開催されて御招待を受けて出席させて頂きました。

本庄・中村・松原・黒光・飯島の諸先生と病院関係の皆さんと、当時の看護婦さん達大勢、遠くは札幌から日高から幌別から集まって下さって、総勢百名近い盛大な集いで、心温まる歓迎に預かり、当時の思い出話に花が咲いて、感激致し楽しい嬉しい一夜を過ごしました。

日頃の御無沙汰を謝し、諸先生の御健勝と親交会の御発展を祈念して一筆御礼を申し上げます。

千葉県千倉町瀬戸二三六〇

高橋 清蔵

(三・二一・一一)

今年も残り少なくなつて参りました。

波久鳥お送り頂き有難うございました。

早速佛前に供へ後、読ませて頂きました。存じ上げてる先生方のお名前や写真を拝見し一人なつかしさがこみ上げて参り、

それ〴〵お元氣な御活躍の御様子を伺い  
知る事が出来、心より御喜び申し上げて  
おります。

いつまでも御心にかけて頂き感謝申し  
上げて居ります。お寒き折諸先生呉々れ  
もお大切にお過ごし下さい。御礼まで。

水戸市千波町三九五―二

かしこ

松岡 志げ子

(二・一一・一二)

波久鳥十二号ありがとうございました。  
加藤先生の表紙の絵、先生らしさが溢れ  
ていいですね。

エッセイでは竹内先生の太宰治の登場  
するあたりに心曳かれました。

今年ももう終りです。よいお年をお迎  
え下さい。

室蘭市幕西町一―一

稲月 螢介

拝啓 貴台益々ご隆昌の段お慶び申し  
上げます。

さて、この度「波久鳥」を御送付いた  
だきまして誠にありがとうございます。

早速、当医師会・医師会立病院の運営

ならびに學術研究の参考にさせていた  
きますと共に、永く当院の図書として保  
存させていただきます。

先ずはとりあえず書中をもつて御礼申  
し上げます。

鹿児島県肝属郡大根占町神川一三五

敬具

肝属郡医師会

(二・一一・五)

この度は波久鳥・第十二号をお送り下  
さいまして誠にありがとうございます  
当院での研究資料として大いに活用させ  
ていただきます。

厚くお礼申し上げます。

貴会のますますの御発展を心より祈念  
致します。

登別市登別東町三一九

北海道大学医学部附属病院登別分院

(二・一一・五)

## 親交会のおもな行事

○ 受賞祝賀会及び忘年パーティ

平成3年12月12日

於 ホテルサンルート室蘭

○ 平成4年度定期総会・懇親会

平成4年5月28日

於 室蘭プリンスホテル

○ 秋の行楽会

平成4年9月12日

於 新羅館

○ 親睦旅行

平成4年11月19日～23日

台湾(高雄方面)

## 編集後記

今年の紅葉は見事でした。わが家に庭を作ってからこのかた、木々の葉は秋になっても色褪せるばかりでしたがどういうわけでしょう、今年はドウダンツツジ、ナナカマド等が真紅に染り、自然の造る色彩に感嘆のため息をついたものでした。

この一年、息子の朝野球の応援と、中学に入學し、いよいよ受験戦争に船出した娘を叱咤激励することに明け暮れていたような毎日でしたが、夕闇のなかをやや遅れて編集会議に出席すると、そこはもう、日常の凡事とはかけはなれた世界です。

竹内先生の大論文を前にして誰かが独逸語を読みます。「メンシュ・ハイト」の midpoint について三村先生がひとしきり講釈をします。独逸語のやりとりを聞いているうちに、大学のドイツ語か哲学の時間にタイムスリップしたかのような不思議な懐かしい感覚にとらわれてしまいました。「母恋」、「八十八富士山頂を極める」、ではお二人の多才さに尊敬の念を禁じ得ません。すっかりおなじみになった寅さ

ん紀行、今年も相変わらずのりで快調です。鴨井先生にはモータリストクラブの支笏湖紀行、西里先生にはドクターズゴルフ優勝記をそれぞれ寄せていただきました。それにしても西里先生の記憶力には脱帽いたしました。

肺を診る会で時々お会いした種田先生、伊藤先生にはもうお目にかかることが出来なくなってしまうしました。熊谷先生には、友人として追悼の記をお願い致しました。万感の思いがこめられており心を打たれます。

波乱を極めた座談会も没になるかと心配しましたが、わが編集局のブレインの手にかかって何とか体裁がつかしました。

寄稿されて下さった先生方には厚く御礼申し上げます。

私も医師会の文壇の重鎮に囲まれて三年、どうなることか先が危ぶまれますがこの拙文を書かなければ台湾旅行にも行けないようです。文中お叱りを受けることも多いかと思いますが、御容赦お願い致します。また、編集の影武者としてワープ入力から割付、仕上げまで多大な御尽力をいただきました事務局の高橋氏には感謝のしやうもありません。

## 会 員 異 動

平成 3 年 1 0 月～平成 4 年 9 月

| 年・月  | 事 由 | 氏 名    | 医療機関名          |
|------|-----|--------|----------------|
| 3・11 | 逝去  | 伊藤 謙 治 | 三愛病院           |
| 3・12 | 逝去  | 種田 豊   | 種田医院           |
| 4・1  | 転出  | 吉田 勝太郎 | 壮警温泉病院         |
| 4・2  | 転出  | 池田 穂   | (札幌市)          |
| 4・5  | 入会  | 角 哲 雄  | 恵愛病院           |
| 4・5  | 入会  | 新井 良   | あらい内科医院        |
| 4・6  | 入会  | 池田 洋   | いけだみみはなのどクリニック |
| 4・8  | 逝去  | 太田 克 英 | 太田医院           |

(斎藤美知子記)

正 誤 表

| 頁  | 箇 所         | 誤             | 正               |
|----|-------------|---------------|-----------------|
| 17 | 上段 2首目      | 病 <u>金</u>    | 病 <u>舎</u>      |
| 46 | 中段 幹事       | 室蘭医師会         | 室蘭 <u>市</u> 医師会 |
|    | 下段 青年 B 4 位 | 佐藤 <u>貢</u> 貢 | 佐藤 貢            |

「波久鳥」十三号編集委員

加藤 治良  
大久保 洋平  
澤 山 豊  
児 玉 直彦  
三 村 博通  
村 井 幺乙  
斎 藤 美知子

親交会会誌 波 久 鳥

発行日 平成五年一月十五日

発行所 室蘭市医師親交会

印刷所 室蘭印刷株式会社